

## 高知県史編さん事業の各期総括について

### 1. 各期総括について

○単年度で作成する計画表・実績表に基づく進捗状況をふまえ、各期における専門部会の運営や資料調査、編集等に関して、部会及び事務局担当としての成果と課題も併せて、以下の項目で総括を行う。

(1) 編さん体制

- ア 各期計画及び編集方針策定の有無
- イ 専門部会の開催回数

(2) 資料調査

- ア 調査した主な資料群、調査実施地域
- イ 資料データの収集（撮影等）の状況

(3) 編集

- ア 刊構成、収載項目（目次）の決定状況
- イ 資料の活字化（翻刻）、校正

(4) 特記事項

- ア 実績（計画以上に取り組んだ内容など）
- イ 部会担当の取組（目録作成、資料データの整理環境の構築など）

(5) 事務局

- ア 資料データ収集・管理
- イ 人材育成（歴史資料調査隊養成講座など）
- ウ 広報啓発（広報紙の発行、成果報告会の実施）

(6) その他

### ○総括の方法

- ・各期の計画期間が満了する年度末から次年度当初にかけて、各専門部会において(1)～(4)の項目に基づき総括を行う。
- ・計画に対する到達度の評価は、◎○△で行う。
  - ◎…おおむね完了、○…おおむね計画通り、△…計画より遅れている
- ・総括の内容は、一覧表としてまとめ、各期開始年度1回目の編さん編集委員会で報告する。

### 2. 次期計画への記載

○第13回編さん編集委員会で出された「期計画の進捗管理と評価・検証の進め方」の課題をふまえ、各期計画では「I 基本的事項」の「5 計画の推進」に進捗管理と評価・検証の方法を明記し、これにのっとり計画を進めることとしたい。

○各期計画における明記（案）

- ・各期計画の推進について、以下のように明記する（ゴシック字体箇所）。

## I 基本的事項

### 5 計画の推進

#### （1）計画の管理

本計画は、「II ○○部会に関する事項」に示す事業内容に沿って、**編さん編集委員会及び高知県史編さん事務局**が、進捗管理と検証を行い、高知県史編さん委員会（委員長・高知県知事）に提出します。

また、「II ○○部会に関する事項」に示す事業内容は、編さん編集委員会や○○部会などでの協議を踏まえて、必要に応じて見直しを行います。

#### （2）評価と検証

**事業の進捗管理は、年度ごとに部会の運営や調査状況、編集の進捗、事務局の取組などを基に行います。各年度及び計画の期末には、○○部会や編さん編集委員会で実績、成果と課題を踏まえた評価と検証を行います。**

- ・（1）計画の管理については、高知県史編さん事務局が単年度で作成する計画表・実績表に基づく進捗管理を行っているため、そのことを明記する。
- ・（2）評価と検証については、各期計画では総括の方法が明記されていなかったため、新たに項を加え、評価と検証について明記する。

※記号は進捗の状況  
 ◎：おおむね完了  
 ○：おおむね計画どおり  
 △：計画より遅れている

部会名 (設置年)	(1)編さん体制の構築・運営			(2)資料調査の実施				(3)編集				(4)特記事項		(5)その他
	第1期 計画 策定	編集方針 策定	部会 運営	調査した主な資料群、 調査実施地域	資料データの収集 (撮影等)の状況	刊構成、掲載項目 (目次)の決定状況	資料の活字化(翻刻)、校正	※参考 初刊発行 年度	その他実績 (計画以上に取り組んだ内容など)	事務局(部会担当)の取組 (データ整理環境の構築など)				
近世 (R4)	◎	◎	回	・山内家資料(高知市) ・五藤家文書(安芸市) ・北川家文書(東洋町)	○ ・調査資料群 13件 〔資料点数 5,979点 撮影枚数 58,443枚〕	○ ・項目案の作成 ・掲載資料の選定	○ ・資料の活字化 〔「資料編1」 1,280頁 その他 233頁〕	◎ R8年度 (資料編1)	・資料編2以降に収載予定の資料調査 (撮影) 三谷家文書	・目録作成 資料群 件 ・資料撮影環境の整備 (用具準備・整理、管理体制の構築)				
近代 (R4)														
民俗 (R4)														
古代中世 (R5)														
現代 (R5)														
考古 (R6)														
文化財 (R7)														
事務局	・編さん委員会 4回 ・編集委員会 14回		○	【資料データ収集・管理】 ・資料所在概要調査全34市町村(R6年度完了) ・県史クラウドシステムの開設、運用(R5～)	○	【人材育成の実施】 ・「歴史資料調査隊」養成講座の開催 回 ◇資料撮影編 修了者 人 ◇史料解読編 修了者 人		◎	【広報・啓発】 ・成果報告会の実施(中土佐町、安芸市、四万十市) ・文化広報紙「とさぶし」 ・県史編さんニュースレター「ときのあかし」 ・高校生の体験				◎	

No	項目	委員会	意見	当日の回答	対応状況	現状及び今後の対応
1	関係団体とのデータ共有について	第5回	・県が関連する資料館や美術館等のデータ管理・整理はどのような状況か。	・関連する団体のデータベースにある情報が公開可能なものも含め、今年度から来年度にかけて各館と調整を行っていく。	○	・施設が所有するデータについても、必要なものは提供を依頼。 ・調査した資料については、データ、目録等を提供している。 個人蔵資料（北川家文書）、旧役場文書（安芸市、仁淀川町など）、高知県立文学館（民話録音テープ）など
2	県史の判型・段組について	第7回	・資料編について、日記や記録類を掲載することも検討されており、カラー写真の対応について伺いたい。 ・DVDなどの附属資料について検討しており、相談させていただきたい。	・全体の刊行数や各部会の掲載資料や事情等も勘案して、調整させていただき、改めてご報告させていただく。	○	・第8回編集委員会にて判型・段組について事務局案を提示済み。なお判型について複数の印刷製本会社と協議し、第13回編集委員会にて、事務局案を提示。
3	資料の所在確認について	第8・9回	・資料の所在や情報についての情報共有をお願いしたい ・所在の調査について全体で取り組めるような体制を事務局主導で構築できないか ・所在調査の優先順位について、資料編の刊行が近いこともあり、近世が第一優先であることを理解していただきたい。また、他の部会の所在調査の際にも、近世の文書があるか等確認していただきたい。	・所在調査について34市町村を一巡し情報を集約、事務局の各部会担当同士で情報共有を行っている。 ・一方で合併済みの市町村については、追加調査が必要となっている	○	・合併前の旧市町村単位での調査を、令和6年度に室戸・香美地域で行ったほか、追加調査を東洋町で行った結果、前県史掲載資料が見つかった。（北川家文書）。今後も順次行っていく。 ・すでに編集作業にとりかからないといけない部会もあり、人員と予算に制限がある中、一定優先順位をつけたうえで、各専門部会の意見をふまえながら所在調査を進めていく。また、所在調査の際に他部会の資料についても確認し、情報共有を行う。 ・令和7年度は、「安永日記」「南山日録」等（津野町）、故岡内英吉氏所蔵資料（四万十町）、「森山家文書」（四万十市）などを調査。 ・令和8年2月より、『高知県史史料目録』や旧自治体史で確認された資料について、所在確認調査を開始（土佐清水市、大月町）。 ・今後も引き続き、『旧県史目録』等に記載の情報を元に、資料所在調査の実施を検討する。
4	高知県史の広報について	第7・8回	・県史編さんに関係する資料や文献の所在情報等について、情報提供の呼びかけをHPに掲載できないか。 ・「高知県史」と検索して出てくるような工夫及びFacebook等SNSを利用した発信を検討いただきたい。	・情報提供の呼びかけと連絡先についてHPに掲載するようにする。 ・順次HPの拡充を行っていく。	○	・資料の所在情報については、市町村訪問時に担当職員に毎回提供依頼を行っており、HPにも掲載を始めている。その結果、情報提供も実際にあり、調査に行った事例もあり。 ・SNSについてはR6から「とさぶし」が1月に5回Instagramを発信する予定。（県史情報も含む）その他、令和6年度末より毎年の発刊を予定している「とこのあかし」についてもFacebookにて月1回、順次調査の様子等の紹介を始めている。 ・また、県史編さん室の業務報告として「とこのあかし」やHPにて引き続き県民向けに公開していく予定。 ・令和7年度からInstagramのアカウントを開設。Facebookと連携する形で投稿を実施。
5	資料調査の成果報告について	第9回	・調査の成果報告会について編集作業と並行での実施については負担も大きく、規模感を考えた具体的な計画が必要。 ・刊行の翌年に、成果に基づいた講演会の開催を基本スタンスとするのがよいのではないか。	・今後も具体的な案を出しながら検討していきたい。 ・各部会からも成果報告の場の要望について出していただければと思う。	○	・令和7年度は、12月7日（土）に四万十市立武道館にて成果報告会を開催。 ・33人参加。
6	編さん委員会の進め方について	第11回	・具体的な意見や注文が出るようにするためには、進捗管理を厳しくするものではなく、興味を持てる内容を盛り込むことではないか。 ・各部会がそれぞれ報告するのではなく、編集委員会で報告した内容をワンペーパーで報告したうえで、直近で注目された資料等を紹介し、質疑や議論をするのがよいのではないか。	・事務局にて具体的な構成案を検討する。	○	・第12回編集委員会にて、構成案を事務局より報告。 →各専門部会の報告について、基本的にはワンペーパーにまとめ、部会長からの報告数を絞り、質疑応答の時間を大幅に作る形で実施した結果、ご意見をいただいた。
7	人権的な配慮を必要とする事項について	第11回	・部落差別問題は地域によって扱い方がかなり異なるが、現在の場所を特定されるような表現は避けるということを厳守する必要がある。	・過去の事例等を第12回の編集委員会にて各委員から紹介いただく形で協議予定。	△	・第12回編集委員会以降、県史としての取扱いを協議中。

## 古代・中世部会 活動報告

## (1) 刊行内容(計画)の変更について

- 資料編2を「県外所在史料、記録・典籍類、聖教類・奥書・金石文・文学、海外関係史料」とする。
- 資料編3を「長宗我部氏関連史料」とする。
  - ・資料編2(県外所在史料はそのまま)と資料編3の収載史料を入れ替え、「長宗我部氏関連史料」を資料編3として独立させる。

## (2) 部会など会議の開催

- 部会長・事務局協議 12月19日(金)14時～ Zoom
  - ・中世史料文書目録(統合文書目録)及び史料テキストの作業について
  - ・中世史料担当委員による1月～校正作業開始にむけて
  - ・古代史料の校正
  - ・3月の東博「香宗我部家伝証文」の調査準備
- 部会長・調査協力員協議 1月8日(木)16時～ Zoom
  - ・中世史料文書目録(統合文書目録)及び史料テキストの作業について
  - ・作業分担について
  - ・調査協力員候補(吉澤林助氏)との協議
- 副部会長・事務局協議 1月15日(木)9時30分～ 高知大学
  - ・資料編3「長宗我部氏関連資料」の作業について
  - ・次年度以降の作業者について
- 中世史料の委員校正に関する協議 3月6日(金)10時00分～ 史料編纂所
  - ・中世史料の委員予備校正、院政期史料校正の作業について

## (3) 史料調査等

## \*事務局調査

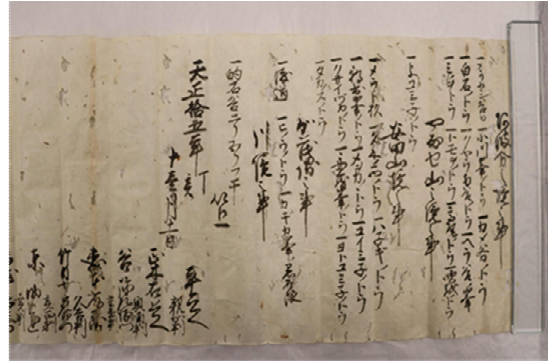
- 11月20日(木) 香川県立図書館・香川公文書館における文献調査
- 12月2日(火) 高松市香南歴史民俗郷土館における「由佐家文書」調査  
香川県立ミュージアム所蔵「豊臣秀吉朱印状」調査
- 12月20日(土)・21日(日) 香川県所在史料の予備調査:香川大学ほか
- 1月15日(水)・16日(木) 借用中の「北川家文書」の調査・撮影

(長宗我部盛親書状写・長宗我部地検帳写)

- 2月27日(金) みとよ未来創造館における「秋山家文書」調査  
3月5日(木) 水戸市立博物館における長宗我部関係史料の調査  
(水戸鈴木家文書、長宗我部元親書状)

**\*委員による調査**

- 2月1日(日) 「北川家文書」の調査・石畑



- 3月6日(金) 東京国立博物館所蔵「香宗我部家伝証文」の原本調査  
・・・井上・岡本・守田

(4) 資料編・本編編さんにむけた作業状況

○事務局における作業

\* 「資料編1」古代史料の校正作業

権記(完了15件)、左経記(完了5件)、小右記(完了33件)

⇒古代史料(森委員作業完了分)の事務局校正 303/430件 完了

\* 「資料編3」に関する長宗我部関連発給・受給文書の抽出作業

『豊臣秀吉文書集成』全8巻了、326件抽出

『増訂織田信長文書の研究』上・下巻 10件抽出

『徳川家康文書総目録』の関連資料抽出 5件抽出

『香川県史8 古代・中世史料編』の関連資料抽出 44件抽出

『大日本古記録 上井覚兼日記』の関連資料抽出 34件抽出

『長帳甲1』(高知城歴史博物館所蔵)の関連資料抽出

\* 平井委員提供データの目録化作業 381件

\* 旧県史収載の棟札・金石文データの確認作業

統合文書目録(文化財統合版)の確認・修正、867件

\* その他

文献PDF化作業

「四天王寺古文書」の関連資料抽出：1巻15件抽出、2巻該当無  
「香宗我部家伝証文」翻刻作業 26件

#### ○史料編纂所における作業（受託研究）

##### \* 統合文書目録の整備

史料編纂所撮影マイクロフィルムデータの追加 230点

その他旧県史未収録データの追加

➔ 現状：旧県史収録分 1450点、未収録分 1038件 総計 2488件

郡分・家分のグルーピングに必要なメタデータの整備・確認作業へ

##### \* 校正用史料テキストデータの作成

戸谷穂高氏作成データ（継続中） 150点

吉澤林助氏作成データ（継続中） 154点

累計 450点強のテキストを蓄積、さらに総合目録収録分の史料テキスト生成へ

#### （5）今後の予定など

##### ○「資料編1」にむけた編さん作業の本格化

生成テキストを対象とする校注の作業本格化・・・中世担当委員で分担

➔ 近世写本テキスト間での校訂方針の確定、版面体裁の検討

郡分・家分作業にむけた関連メタデータの精査

##### ○「資料編3」にむけた長宗我部関係資料の収集強化

編さん方針の確定にむけて調整を進める

## 近世部会 活動報告

### (1) 協議事項

- ・ 令和7年度第3回近世部会（12月20日・21日）・第4回近世部会（2月11日）  
『資料編 近世1』の編集作業報告及び目次の検討  
→掲載史料の表記方法再検討、全体で統一すべき事項の摺合わせや次年度以降のスケジュールの確認を行った  
※令和8年3月末に掲載史料（964頁分）の原稿完了予定。解説は入稿後に執筆する。

		令和7年度							
		令和7年4月～8月	令和7年9月	令和7年10月	令和7年11月	令和7年12月	令和8年1月	令和8年2月	令和8年3月
編集作業	レイアウト 掲載史料等の検討 担当者割り振り		★第1次〆切 (9月12日) ※掲載史料の再検討	校正作業（掲載方法検討等） 資料編1の構成		★第2次〆切 (12月11日)	原稿最終調整期間	★第3次〆切 (2月4日) 目次の掲載方法検討 掲載史料の総ページ数算出	★第4次〆切 (3月11日) ↓ 3月末 完了予定
部会	第1回近世部会（5月）	部会調査(9/20～9/23) 第2回近世部会	「ときをあかし」 原稿提出		第3回近世部会	※維新班調査(1/10・11)	第4回近世部会	部会調査・部会(仮) 「ときをあかし」 執筆者決定	
事務局	史料翻刻依頼	判型・段組みの検討及び確定 仕様の作成				県史編さん室へ入稿後の原稿整理作業			原稿修正期間 入稿準備

- ・ 第4回維新班調査及び協議（令和8年1月10日・11日）  
高知市立自由民権記念館所蔵史料の調査及び協議を行った  
※維新班委員  
近世部会：今村委員（班長）、東野委員  
近代部会：奈良委員（副班長）、羽賀部会長、飯塚委員、筒井委員  
  
→調査史料は下記のとおり  
細川家資料 / 檜垣家資料 / 徳弘家資料 / 吉良家資料 / 片岡家資料  
協議では、近世部会・近代部会の活動報告を行い、今後も年1回の調査及び協議を継続する予定。また、維新班の調査成果はシンポジウム等開催をし、県民への発信をしたいとの意見が出た。

### (2) 今後の予定

- ・ 第10回近世部会調査（北川家文書）  
調査日：令和8年3月26日（木）～29日（日）  
場 所：高知県庁 本庁舎1階正庁ホール  
参加者：近世部会委員、高知大学、高知県立大学、京都大学大学院、岡山大学、愛媛大学、名古屋大学大学院  
高知県立高知城歴史博物館（藤田 雅子課長）  
高知県立坂本龍馬記念館（安岡 達仁学芸員・小部 さくら学芸員）

近代部会活動報告 (2025 年 11 月～2026 年 3 月)

2026/3/15 編さん編集委員会

## 1, 部会の開催

(1) 第 15 回部会：12 月 25 日 (高知県立県民文化ホール会議室)

(2) 第 16 回部会：3 月 10 日 (京都大学人文研)

### ①資料編 2 の誌面構成・ページ割等

・1 ページ 25 字×19 行×2 段 950 字

・総頁 1000 頁 (表紙・口絵 20 頁、凡例・目次 30 頁、本文 (10 章) 880 頁、解説 60 頁、あとがき等 10 頁)

・資料編 2 の各章の頁割について

②撮影・翻刻の取り組み状況 撮影点数：6110 点 (314807 枚) 翻刻点数 362 点 (665093 文字)

③第 II 期計画案について

## 2, 部会活動の状況

(1) 各委員の進捗状況及び成果報告会 12 月 25 日、3 月 10 日

・各委員 20～30 分程度で進捗状況と成果を報告

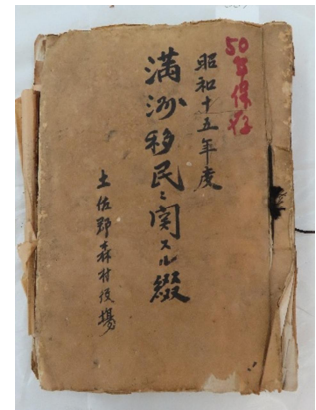
・クラウド上の「編集用シート」へ採録候補資料を記載し、A ランク資料を順次翻刻にまわす

・2026 年 9 月 (第 18 回部会) までに採録資料候補 1 次案作成を目指し、部会で検討する

(2) 合同調査の実施 2026 年 2 月 15 日～16 日

・土佐町郷土学習センターで「土佐町旧町村役場文書 (近代資料)」の調査 (旧田井村、地藏寺村、森村など)

約 230 冊 (主に大正～昭和戦前期)



- ・2月16日 本山町役場で「本山町旧町村文書（近代資料）」（本山町、旧吉野村）

21冊（1884年～1932年）



- ・2月17日 長岡郡大豊町の定福寺・「豊永郷民俗資料館」の見学



定福寺住職・豊永郷民俗資料館学芸員の釣井龍秀氏から施設の説明を受ける

「定福寺蔵文献資料」（写真帳）を閲覧する

### （3）各委員の個別調査

- ・坂口委員 室戸市「島村家文書」、いの町紙の博物館「吉井源太資料」など
- ・羽賀委員 オーテピア図書館「中城文庫」、高知城歴史博物館「竹林寺文書」など
- ・筒井委員 「旧山田町議会資料」「松尾富功禄関係資料」など
- ・飯塚委員・奈良委員 高知市立自由民権記念館「土陽新聞」調査など

### （4）維新班合同調査 高知市立自由民権記念館「片岡家資料」「細川家資料」「檜垣家資料」など

今村委員、東野委員（以上近世部会）、羽賀委員、飯塚委員、筒井委員、奈良委員（以上近代部会）

## 4、今後の部会全体のスケジュール

- ・第18回部会及び現状報告会 6月（日時未定）
- ・第19回部会及び現状報告会 9月（日時未定）

## 現代部会の調査および編集に向けた対応状況について

令和8年3月15日  
高知県史編さん現代部会  
正副部会長

## 1 資料編第1巻の進捗状況と今後の予定

## (1) 資料編第1巻における構成

第12回専門部会をふまえ、第1巻の構成のうち、第1部の県域編及び第2部の地域編（県西部）の目次については、おおよそ確定してきている。今後、資料選定を進め細目次の構成を検討する。

## (2) 資料収録（第1巻は重点資料を収録する）

第1部および第2部ともに、今後は資料の選定・確定の協議を重ね、令和8年9月に目次と資料を確定する予定。

## (3) 各委員による資料提出と選定理由の説明

## ①令和6年8月部会（選定資料の一例）

○『県民クラブ』「モデル農村の構想」1953年3月（高知広報社）

○『県民クラブ』「本県の生産力をどうして高めるか」1958年9月（高知広報社）

○『南米視察報告書』1956年10月（高知県）

## ②令和7年3月部会（選定資料の一例）

○『教育月報』「へき地の学校訪問記」1954年4月（高知県教育委員会）

○『高知るねさんす』「創刊号 発刊のことば」1948年3月（高知県教職員組合）

○『広報にしとさ』「出稼者の生活と願いアンケート調査」1970年5月（西土佐村役場）

## ③令和7年8月部会（選定資料の一例）

○『長官事務引継書』1946年1月（高知県秘書課）

○『第九次教研高知集会 僻地の教育を進めるには』1959年（高知県香美郡在所村清爪小学校 野口美）

○『窪川町における原子力発電所立地可能性調査促進に関する決議』1984年7月7日（高知県議会）

## 2 専門部会の実施状況

## (1) 部会内容（令和7年12月24日実施：オンライン開催）

## ①協議内容

○資料編1のページ構成及び資料選定状況について

○次回合同調査における調査内容及び調査先等の検討

○自治体史における人権に関する事項や個人情報等の取扱事例について

3 合同調査及び第13回専門部会に向けて

(1) 合同調査（令和8年3月25～28日予定）

①地域：県東部（安芸郡中心）を予定（令和7年8月調査の深掘り）

②内容：市町村役場等の資料調査及び聞き取り調査

(2) 専門部会（令和8年3月27日予定）

①委員による資料編第1巻の候補資料の調査状況及び第1巻目次構成

②資料編第2巻及び第3巻の構成内容の検討及びスケジュール確認

③人権に関する事項や個人情報等の取扱いについて

## 第14回高知県史編さん編集委員会 考古部会資料

## テーマ

『高知県史資料編 考古1 (旧石器時代～古墳時代)』のラフスケッチ

## 1. 令和7(2025)年度の部会・編集編さん委員会および調査

## (1) 総括

- 4月4日・8日 第1回部会 (リモート)
- 4月30日～5月2日 宿毛市歴史館・沖の島・鶴来島 (松田・鋤柄)
- 5月3日 物部川旧流路の歴史的景観復原 (佐竹・鋤柄)
- 6月7～9日 本山町・春野・県センター (追川・松田)
- 6月10日 第2回部会 (リモート)
- 7月1日 第12回編集委員会
- 7月4～7日 コゴロク廃寺・徳善窯・国分寺・県歴民 (大橋)
- 7月21日 高知考古学研究会で活動報告 (鋤柄)
- 7月22日 大川上美良布神社・豊楽寺・定福寺
- 7月28日 第3回部会 (リモート)
- 8月6・7日 新改横走古墳 (清家)
- 9月5日 第4回編さん委員会 (若宮の東遺跡出土の刻書土器の調査方針について)
- 9月7日 南四国における弥生・古墳時代の埋葬と儀礼 (宮里)
- 9月22日 第4回部会 (リモート)
- 10月31・11月1日 野田廃寺・国府 (大橋)
- 10月31日 鹿児焼窯跡 (追川)
- 11月1日 第5回部会 (対面)
- 11月14日 古墳時代鉄製品 (清家)
- 11月22・23日 四万十市山城調査 (松田)
- 11月24・25日 野市・春野の歴史的景観復原 (吉成・鋤柄)
- 11月26日 第13回編集委員会
- 11月29日～12月1日 岡豊城・武市半平太墓所・山内家墓所・野中兼山と婉ら一族の墓・東野土居遺跡等考古資料 (追川)
- 12月7日 「タキモト城跡と小串城跡の縄張り調査から」四万十市 (松田)
- 1月23～25日 幡多郡大月町内山城調査 (松田)
- 1月28日 高知市吉弘古墳写真測量 (清家)
- 2月3日 第6回部会 (リモート)

- 2月9・10日 土佐山内家墓所等調査（追川）
- 2月14・15日 幡多郡大月町内山城調査（松田）
- 3月8日 国分川の歴史的景観復原（吉成・鋤柄）
- 3月9日 県埋文センターで部会の活動報告（鋤柄）
- 3月15日 第14回編集委員会
- 3月21～23日 秦泉寺廃寺出土物等調査（大橋）
- 4月5日 令和8年度第1回部会（対面）

## （2）添付資料

- ①旧石器時代、縄文時代、弥生時代編集リスト
- ②古代調査報告（大橋）
- ③野市・春野の歴史的景観復原調査報告（吉成・鋤柄）
- ④古墳時代鉄製品調査報告（清家）報告
- ⑤近世調査報告（追川）

## 2. 継続確認事項

- ・弥生時代遺跡編集経過
- ・古墳時代遺跡編集予定
- ・刻書土器の時期の年代測定と胎土分析候補資料の選定
- ・重要遺跡候補の検討
- ・他部会連携と協議の仕組み作りについて
  - ①文化財・古代中世部会との担当協議と共同調査について
  - ②民俗部会との地名についての情報共有について
  - ③近世部会の村絵図・土居絵図等の情報共有、並びに高知城下町と京大北部構内の土佐藩白川邸の共同調査について
  - ④近世・近代・現代部会との野中兼山関係の担当協議

## 3. 新規確認事項

- ①ときのあかし  
吉成委員「中世」、追川委員「史跡 山内家墓所」

## 4. 考古部会に係る県内の動向

- （1）史跡指定
  - ①野中廃寺（南国市）
- （2）現地説明会
- （3）高知県立埋蔵文化財センター
  - ①4月27日～7月6日 企画展Ⅰ「高知の遺跡展－居徳遺跡群－」

- ② 7月20日～9月15日 四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展  
「四国を掘るー古墳出現ー」
- ③ 9月7日 講演会「南四国における弥生・古墳時代の埋葬と儀礼」宮里修氏
- ④ 10月12日～3月31日 企画展Ⅱ「土佐のまほろば新発見ー若宮ノ東遺跡ー」
- ⑤ 11月2日 講演会「文字文化の東遷と若宮ノ東遺跡の刻書土器」田中史生氏
- ⑦ 11月6日 講演会「高知考古学の重要成果」宮里修氏
- ⑧ 1月17日～2月1日 地域展「続・香美市の遺跡展」
- ⑨ 1月25日 講演会「香美郡の古代」前田光雄氏
- (4) 高知県立歴史民俗資料館  
～5月6日 企画展「西南四国の中世社会と公家」
- (5) 南国市  
10月26日 戦争企画展講演会「前浜4号掩体発掘調査報告」岡上萌子氏、「高知の戦争遺跡」出原恵三氏
- (6) 香南市文化財センター  
6～12月 戦後80年企画巡回パネル展「香南市の戦争遺産」
- (7) 高知市春野郷土資料館  
8月2日～3月1日 企画展「芳原城」
- (8) 高知人文社会科学会  
12月14日 シンポジウム「朝倉城跡発掘10年ー成果と展望ー」
- (9) 幡多地区文化財保護連絡協議会・四万十市  
2026年1月15日 講演会「城郭調査から見えてきた幡多の戦国時代」  
松田直則氏

## 5. 令和8(2026)年度調査の目標

- (1) 旧石器時代調査カードの完成
- (2) 縄文時代調査カードの編集
- (3) 弥生時代掲載調査カードの編集
- (4) 古墳時代掲載遺跡の選定と調査カードの編集
- (5) 古代遺跡の調査
- (6) 中世山城の調査
- (7) 中世集落の調査
- (8) 近世遺跡の調査
- (9) 中世以前の歴史的景観復原の調査

- (10) 高知県史の活動を県民の皆さんに知っていただくプロジェクト
  - ①遺跡や遺構や遺物の3次元コンテンツを県史のホームページなどで公開
  - ②県立歴史民俗資料館および県立埋蔵文化財センターとの連携
- (11) 人材育成
  - 遺跡や遺物の3次元レプリカなどをベースに見て触って体験できる学校の副教材作成
- (12) 試掘を含めた既往調査データの整理、石造物の基盤情報策定

## 6. 第1編のラフスケッチ

# 第1編のラフスケッチ

高知県史資料編 考古1 構成案(R7.9.22時点)

構成	頁数	遺跡数	モノクロ/ フルカラー	用紙	備考
内表紙	2		モノクロ	マット紙等/裏白	註1
巻頭図版	14		フルカラー	マット紙等	
目次	6				
本文	724				
1. 考古学史	20				註2
2. 編年	6				
3. 概説	14				
4-1. 旧石器時代遺跡	44	13			
4-2. 旧石器時代総括	4				
5-1. 縄文時代遺跡	120	60	モノクロ	書籍紙	
5-2. 縄文時代総括	4				
6-1. 弥生時代遺跡	236	80			
6-2. 弥生時代総括	4				
7-1. 古墳時代遺跡	268	90			
7-2. 古墳時代総括	4				
資料編 考古1 総括	32				
引用・参考文献	10				
索引	10				
奥付	2				
合計	800	243			

註1：同じ用紙を用いた場合、面付けに効率的な「16」の倍数に基づき、最大16頁。  
 註2：面付けに効率的な「16」の倍数に基づき、最大784頁。

高知の考古学史資料については、旧『高知県史考古資料編』で、取り扱われているものを基本として、各時代の学史を述べる。

## 学史

1. 江戸時代の史料から、考古資料発見に伴う記述やスケッチを取り上げる。  
 2. 東京都大森貝塚(日本考古学発祥地)を発掘したアメリカ合衆国の動物学者エドワード・シルヴェスター・モース(英: Edward Sylvester Morse、1838- 1925)と共に発掘調査に参加し、報告書も書いた大豊町出身の松浦佐用彦氏や墓についても述べる。東京大学から明治12年に刊行された『Shell mounds Omori』(『大森介塚編』)の報告書が高知県内にある。この書籍はサー・アーネスト・メイソン・サトウ所蔵のものでこれについても取り上げる。

明治時代以降は、寺石正路先生資料の中に今まで知られてなかった明治時代から昭和までの考古資料についての記述やスケッチが存在しており、今回の県史では寺石正路資料を調査し、学史で取り上げる。

3. 大正時代～終戦までは、考古会のリーダーとして活躍した寺石正路先生や武市佐市郎先生や川田信敏先生、青山文庫等の活動を取り上げる。青山文庫内に初めての考古出土品を展示し、考古博物館の端緒となった考古博物館の役割についても学史で取り上げる。

4. 終戦後は、戦後の発掘調査から南国市田村遺跡群の発掘調査を含め、高知県において本格的な行政発掘が実施されるまで、紆余曲折のあった学史を取り上げる。中・近世・近代・現代の発掘調査についてとりあげ、美術工芸品や棟札についても取り上げる。

また、高知城徳徳館や郷土文化会館、高知県立歴史民俗資料館での博物館展示や資料の収集管理状況などについても学史で取り上げる。

戦後の発掘調査がどのような状況で行われた、研究者のポケットマネーで経費が補われていたかなども取り上げる。

若い考古学を専攻した高校の教員がどのような状況で、戦地に赴いたのか。学校名簿から探る。

さらに、高校の教員(岡本健児先生・廣田典夫先生)や高校生が発掘調査に参加した例や発掘調査が高校教員を主体に行われていたことなども取り上げる。

さらに、研究者と地域の郷土史家、地域の若い研究者(片岡鷹介氏)や市町村教育委員会担当者の存在にも眼を向け、戦後考古学者などとして育っていた人物についても述べる。

また、小・中学校、高等学校の教育現場で用いられた実物資料や考古模型の存在についても眼を向ける。模型資料で唯一確認されている阿方貝塚環形土器など。

石造物研究史については、『板碑の総合研究』(1983)、『板碑の総合研究2』(1983)が端緒になり、地域研究者により石造物研究が進んだことを取り上げる。

- 宿毛・不動・龍河洞は遺跡記述のところであつたか
- 戦前は人物史とその著作の意義について？ 岡本桂典氏作成
- 研究会の歴史と変遷？
- 戦後は文化財調査の履歴とその意義？
- 戦後は旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世の区分毎に、研究の進展に寄与した遺跡調査の価値について？

## 巻頭カラー

『日本の古代遺跡』 宿毛貝塚、不動ヶ岩屋洞穴遺跡、三里遺跡縄文後期土器、仕出原・高須大島遺跡縄文後期石斧、片粕遺跡の岩偶、田村遺跡の打製石斧、倉岡遺跡の晩期土器、中村貝塚土器、入田遺跡土器、中村貝塚管玉と筭。田村遺跡群「ワカサカ内」、前期初頭の石鏃・紡錘車・石庖丁・打製石斧、前期初頭の甕形土器、田村遺跡群の水田跡と足跡、田村遺跡の竪穴住居、前期末の壺型土器、下分遠崎遺跡のアンの編み物、着柄孔をもつ鋤、男型形木製品、中期後半土器、神西式土器、分銅形土製品、田村遺跡勾玉出土の竪穴住居、西見当の後期土器、田村遺跡群の横手と田中出土の破砕鏡、浜改田遺跡の把手付壺形土器、龍河洞。高岡山古墳群の遠景、1号墳と2号墳、2号墳出土の石釧、古津賀遺跡の発掘調査、中筋川流域の祭祀遺物、古津賀遺跡の手捏土器の出土状況、小村神社と伝世の環頭大刀、中村市一宮神社伝世の七星剣の象嵌。比江庵寺の心礎、土佐国分寺の心礎、土佐国分寺の富寿神宝の出土状況、岡豊山から国分寺と国府を遠望

『埋文センター』 奥谷南遺跡全景、居徳遺跡の木胎漆器、小蓮古墳、明見彦山1号墳、朝倉古墳、古津賀遺跡の様子、居徳遺跡の様子、具同中山遺跡群の様子、天崎遺跡出土銅矛、田村遺跡水田、田村遺跡竪穴、東野土居遺跡

『ふるさと高知の歴史』 奥谷南遺跡全景とナイフ形石器、不動ヶ岩屋全景、松ノ木遺跡石鏃と土器、田村遺跡松筒型住居と土器、鬼田八幡宮の銅剣、パーガ森北斜面遺跡、龍河洞壺、天崎遺跡の銅矛、美良布神社の銅鐸、高岡神社の銅矛、東崎遺跡の方形周溝墓、朝倉古墳石室、長畝古墳群の轡、中筋川と具同中山遺跡群、仁淀川流域の祭祀遺跡居徳遺跡、奥谷南の細石器、居徳遺跡の土偶、居徳遺跡の木鏃、田村遺跡の弥生人の足跡、田村遺跡の紡錘車、田村遺跡の絵画土器、パーガ森北斜面遺跡の磨製石庖丁、田村遺跡のガラス玉、天神遺跡のでつくね土器、長畝古墳群の鉄剣、久礼八幡の銅戈、小村神社の金銅装環頭大刀拵大刀身

『図説 高知県の歴史』 十川駄場崎遺跡(全景・集石・尖頭器・豆粒文土器・植物繊維混入土器)、不動ヶ岩屋洞穴遺跡(局部磨製石斧・矢柄研磨器) 田村遺跡投擲、龍河洞(鉄鏃・サルボウ製貝輪・有溝石錘・鹿角製有孔品)

『高知県の歴史』 宮崎遺跡砂岩製線刻礫、船戸遺跡の蓋または台付鉢の線刻

『高知の研究』 ヒビノキ遺跡のベッド状遺構のある竪穴住居、鹿児焼窯跡、田村遺跡(方形規矩四神鏡・朝鮮系無文土器)、宿毛貝塚の男根状石器、倉岡遺跡の突帯文土器

『高知県の考古学』 宿毛貝塚人骨出土状況、城ノ台出土の押捺文土器、仕出原出土の縄文土器、用石の竪穴住居断面、福井出土の石包丁、川北出土の有樋式石剣、波介出土の銅剣、奥名出土の鉄刀子、久礼田出土のジョッキ形須恵器、高知農高出土の高坪、曾我山古墳の古鏡、ボケ出土の滑石製勾玉と白玉、古津賀出土の小型粗製土器、稲生出土の奈良時代骨壺、比江庵寺の鬼瓦、久万出土の古銭

## 概説

### 1、空間—地理的環境

#### 利水の歴史と土地の変遷

##### 【流路の変遷】

約7,000年前頃の縄文時代には、海岸線は現在の新物部川橋付近や右岸側の南国市を流れる国分川の downstream に位置していました。物部川付近から高知市市街地までは、標高の高い地域が島状に分布する海であったことが分かります。その後、弥生時代の海進を経て陸地化し、現在のような河道が形成されていきました。



図3.3.8 縄文時代の物部川下流部

国道交通省四国地方整備局・国土交通省国土地理院2003『川と人との歴史ものがたり—四国地方の古地理に関する調査報告書』

#### 地理的環境レイアウト見本

島田(松本?)豊寿1957「高知平野に於ける先史時代海岸線の研究」『土佐史談』第92号復刊13号(土佐史談会)  
 島田豊寿1956『初期城下町の歴史地理学的研究』  
 島田豊寿1978『長宗我部時代の土居と村落』『歴史手帖』53号  
 島田豊寿1978『長宗我部時代を中心とする市町の研究』『土佐史の諸問題』名著出版  
 山本大、島田豊寿1970『岡豊城史』高知放送  
 ※岩井豊寿1942「高知平野下流の研究」『古代文化』第13巻第11号(日本古代文化学会)

## 2、時間一編年表

図4 土佐 [中世食器の地域性 9-10頁]……奥村健夫



- ・平尾道雄 [ほか]共著1956『高知県の歴史』高知市立市民図書館
- ・岡本健児1959『土佐の原始と古代の文化』高知県文教協会
- ・岡本健児1966『高知県の考古学』吉川弘文館
- ・高知県編1966『高知県史』考古編
- ・廣田典夫1967『とさ高知原古墳群』(四国考古学叢書；1)
- ・山本大1970『高知県の歴史』山川出版社
- ・高知県編1973『高知県史』考古資料編
- ・高知歴史辞典編集委員会編1980『高知歴史辞典』高知市立市民図書館
- ・山本大編1982『高知の研究』I 文芸出版
- ・山本大 1983.3『郷土史事典 高知県』昌平社
- ・宅間一之1985『土佐の歴史を語る』
- ・木村剛朗1987『四万十川流域の縄文文化研究』種多埋文研
- ・岡本健児編著 1989『日本の古代遺跡』高知県『保善社』
- ・山本大責任編集1991『図説高知県の歴史』河出書房新社
- ・木村剛朗1991『種多のあけぼの』種多埋文研
- ・廣田典夫1991『土佐の須恵器』(四国考古学叢書；2)
- ・木村剛朗1992『高知県の縄文遺跡とその文化』『第49号研究』31-5
- ・岡本健児1994『ものがたり考古学：土佐国辺路五十年』高知県立歴史民俗資料館
- ・林勇作1995『土佐の石造遺品集』
- ・木村剛朗1995『四国西南沿海部の先史文化』種多埋文研
- ・高知県教育委員会編1996『高知県文化財ハンドブック』高知県文化財団
- ・木村剛朗2003『南四国の後期旧石器文化研究』種多埋文研
- ・高知大学文学部考古学研究室編集2006『南国市における大型後期古墳の調査』(高知大学考古学調査研究報告；第3冊)
- ・高知大学文学部考古学研究室編集2009『高知県後期古墳資料集』(高知大学考古学調査研究報告；第7冊)
- ・出原恵三2009『南国土佐から問う弥生時代像：田村遺跡』新泉社
- ・清家章編集2010『弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地域間関係の研究』高知大学人文社会科学系(人文学部)
- ・森公市、市村公彦、田村安興2012『高知県の歴史』山川出版社
- ・清家章編2012『古墳時代終末期の大型横穴式石室にみる瀬戸内とその周辺の政治的関係』高知大学文学部考古学研究室
- ・高知県郷土史調査本編委員会2018『中高生がまなぶふるさと高知の歴史』高知県教育委員会

## 書誌情報

- 『土佐史談』をはじめとする郷土史の考古学関係論文
- 『土佐史談目録 1号～200号』土佐史談会事務局、1996.3
- 2、一般・専門書籍
  - 高知県の歴史 / 平尾道雄 [ほか]共著(市民新書；11)；高知市立市民図書館 1960.1
  - 高知県の歴史 / 山本大著(県史シリーズ；39)；山川出版社 1970.1
  - 高知県の歴史 / 萩原一郎 [ほか]共著(県史；39)；山川出版社2012.12
  - 図説高知県の歴史 / 山本大責任編集；[山本大ほか執筆]；河出書房新社 1991.11
  - 写真集日本の近代化遺産 / 増田彰久編著；日本図書センター 2000.4
  - 高知県歴史辞典 / 高知歴史辞典編集委員会編；高知市民図書館 1980.3
  - 高知県の考古学 / 岡本健児著(郷土考古学叢書；2)；吉川弘文館1966.3
  - 土佐の歴史 / 平尾道雄著(郷土叢書；第6集)；高知市；高知市観光協会1953.8
  - 土佐史の諸問題 / 山本大編(地方史研究叢書 / 児玉幸多監修)；名書出版1978.6
  - 土佐古跡巡遊録 / 寺石正路著；開成社1909.9
  - 高知の研究 / 山本大編；清文堂出版1982-1989
  - 中世土佐の世界と一条氏 / 市村高男編；高志書院2010.8
  - 土佐の須恵器 / 廣田典夫著(四国考古学叢書；2)；川町(高知県)；廣田典夫 1991.5
  - とさ高知原古墳群 / 廣田典夫 [著] (四国考古学叢書；1) [出版者不明] [1967.1あとがき]
  - 大山・石鏡と西国修験道 / 宮家準編(山岳宗教史研究叢書；12)；名書出版1979.4
  - 高知県後期古墳資料集 / 高知大学文学部考古学研究室編集(高知大学考古学調査研究報告；第7冊)；高知大学文学部考古学研究室 2009.3
  - 『土佐史談』掲載の関係資料

## 3、基礎情報一遺跡総説

1. 観て歩いて、歴史を実感する遺跡や遺物の新たな意味と価値をわかりやすく語り、それらが地域の活性化に資する魅力的な宝であることを県民と共有する
2. そのためにデジタルコンテンツの作成と活用をすすめ、積極的な情報発信をおこない、高知県の魅力を全国に広める

### 資料編と本編の編集編纂構想イメージのコンパクト版



## 基盤情報

- (3) 編集編纂コンセプト
- ★資料編 客観的評価により新規性を加えた既存情報の再評価
- ①時期の認定 (必要であれば年代測定)
  - ②遺物の種類や形式と型式・様式等の認定 (必要であれば科学分析や数量化)
  - ③遺跡の種類と性格をふまえた歴史的な意味の認定 (遺構の配置と構成要素の記述)
- ★本編 新情報を加えた新たな歴史叙述
- 県歴史文化財課および市町村と連携した重要遺跡発掘調査等への協力
- (4) 資料編の構成案
- ①資料編1
    - 『高知県の考古学研究と調査の記録』(109頁)、編年、概説、旧石器・縄文時代67遺跡(200頁)、弥生時代91遺跡(272頁)、古墳時代169遺跡(328頁)
  - ②資料編2

## 4、おさらい一時代概説

### (1)旧石器時代

- ・掲載遺跡の考え方
- ・これまでの調査・研究
- ・その時代を手軽に学べる本
- ・地域性と地域に身近な遺跡

高知県の旧石器文化研究と木村剛朗氏  
森田 尚宏(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター)

1 はじめに

高知県における旧石器時代の研究は、現在も進んでいるとはいえない状況である。これまで発掘調査された旧石器時代の遺跡は、奥谷南遺跡の他、新改西谷遺跡や竜ヶ追遺跡など数例しかなく、その内容も2次堆積や小規模な確認調査、単独出土等であり、資料数も限られている。このような状況の中で現時点で確認されている遺跡の大多数は、踏査による表面採集資料によるものである。遺跡の分布状況においても踏査の粗密が大きく関わっており、県西部において、より多くの遺跡が発見されている。

高知県最古の石器は、宿毛市宇須々木出土のナイフ形石器である。これは単独の出土で、今後同遺跡の精査を必要とするが、このナイフ形石器は型式からみて、ナイフ形石器でも後出のものである。なお、石材はこの地方に多い珪岩製である。これと同様に珪岩製の細石核が単独に高知市介良高間原山から発見されている。

### 岡本健児1983『土佐考古学』の諸問題『高知の研究(地質・考古編)』清文堂



## (2) 縄文時代

- ・掲載遺跡の考え方
- ・これまでの調査・研究

縄文草創期は、この地域の四万十川中流地帯にある有古尖頭器・石槍が不動ヶ岩屋洞穴遺跡、大正町は阿古屋岩陰遺跡、長徳寺遺跡、城ノ台洞穴・大正・地域性と地域に身近な遺跡 双海本駄場、中央部から西部一帯が東九州地方や瀬戸内地方と盛んに交流を行っていた。縄文前期は橋上遺跡が縄B式土器、東部には瀬戸内系の羽島下層式土器が出土し、影野地遺跡から縄B式と羽島下層式が出土、松ノ木遺跡から、サヌカイトや姫島産黒曜石製石器に伴い羽島下層式と縄B式出土、文化波及、江師・広瀬・川口ホリキ遺跡、永野遺跡に彦崎Z式や里木式土器の瀬戸内文化一色、縄文中期は遺跡が少なく、片粕・尻貝・松崎遺跡はすべて瀬戸内系の中期前葉の船元式、宿毛貝塚や新土居宇津々敷・永野遺跡や間崎遺跡、瀬戸内文化の影響を強く受けていた。縄文後期は、遺跡が爆発的に増加、中津式土器文化が波及、住出原・江師・ショウジガイチ・川口ホリキ遺跡、地方色豊かな宿毛貝塚出土の宿毛式土器、宿毛式を祖型とし津雲A式土器文化の影響下で中村市三里・同市隣善山・十和村広瀬、南海岸部は平城式土器文化圏の中にも含まれ尻貝遺跡や片粕遺跡、平城式を祖型として片粕式土器文化圏として発展、西分増井遺跡まで分布、縄文晩期の前半は遺跡が少なく、姫野々上町と東部の美良布、瀬戸内からの文化影響、中村貝塚、有岡ツク口橋下、入田遺跡、倉岡遺跡、段丘地から平野部へと移動、東部は畿内地方からの文化流入、南西部は瀬戸内と東九州からの文化波及

木村剛朗「高知県の縄文遺跡とその文化」

西日本での遺跡からのクルミの出土は、ある場合は当時の冷涼な気候を物語るものである。かかる意味において縄文後期初頭から後期前半は、現代よりも特に冷涼で縄文人には住むに最も適したものであつたのだろうか。縄文前～中期は現代より二度位高温で、縄文人の住む適性は高かったと思われる。それに対し、縄文草創期は現在より3～4度低く、高知平野の温度が現代の東北部の温度と等しい。縄文時代の高知県の平野部は現代より年間平均気温が低い時は縄文人が住み、高い時は縄文人の住み難い土地になるのだろうか。

岡本健児1983「土佐考古学の諸問題」『高知の研究(地質・考古篇)』清文堂



縄文時代323地点

## (4) 古墳時代

- ・掲載遺跡の考え方
- ・これまでの調査・研究
- ・その時代を手軽に学べる本
- ・地域性と地域に身近な遺跡

次のTK230型式期段階には、最大規模の古墳は高知平野の中部北側にあり、高知平野の勢力の中心は東部にあることは明白である。調査ある小遺古墳は現在する位の中まで最大である。小遺古墳の東側500mには赤岩古墳群が認められている。この段階における最大規模の小遺古墳が盟主の首長墳であることは間違いない。

TK27型式期段階になると、大型古墳は多くの地域で築造を停止する。しかし、この段階において平野西部で大型石室墳の盟主古墳が築造される。高知平野西部においては盟主古墳以外の古墳については詳しく知られていないので、詳細はできないがこの段階にいたって初めて大型古墳を築造した可能性もある。

さらに付け加えれば、盟主古墳以降、7世紀後半には古墳築造は行われず盟主の首長の動向を考える資料が欠けてしまう。さらにその後、国府は南国市調査に築まれる。盟主の首長墳の築造場所が政治的中心を反映するとすれば、政治的中心は、7世紀後半の空白を経て、盟主古墳のある高知平野西部から国府のある高知平野東部に移動するようになるのだ。このように後期から終末期においては盟主の首長墳の継承が不安定であり、あるいは政治的中心が移動することは明らかである(図34)。

盟主の首長墳の移動

高知大学人文学部考古学研究室2012『古墳時代終末期の 岡本健児1983「土佐考古学の諸問題」 『高知の研究(地質・考古篇)』清文堂



古墳時代358地点

## (3) 弥生時代

- ・掲載遺跡の考え方
- ・これまでの調査・研究
- ・その時代を手軽に学べる本
- ・地域性と地域に身近な遺跡

弥生時代 前期初頭から後期前半にわたる多量の遺跡。前期初頭、約27,000m<sup>2</sup>の範囲に10棟の竪穴住居跡、この時期には、高知平野に弥生文化が広がった。両者が中央広場をかこむ配置は縄文集落的、松筒型住居。遠賀川式土器よりもさらに古い朝鮮半島の無文土器の影響を受けて遠賀川式土器が生成されている段階「東松木式土器」。初期の段階で大陸系磨製石器のセットが完成している遺跡は、北部九州以外には見出すことができない。朝鮮半島製の可能性大型管玉。石鎌は前期末に綾羅木郷遺跡など関門地域で集中的に出土。田村遺跡は関門地域に先行して盛行していた。磨製石鎌の盛行も朝鮮半島との密接な関係。東西・南北の文化交流の要衝、高知平野に最初に出現した弥生時代の集落。

前期後半南国市周辺へ★分村、遺跡数も増加。※外来先進文化との接触というカルチャーショックから脱し伝統的な集落構造に回帰。244枚の小区画水田跡、弥生人足跡。 中期末から後期前半。竪穴住居跡が20棟集落跡が北西部で発見。合計411。掘立柱建物も200棟前後。鉄器生産。西方から移動してきた集団。最盛期は中心部が東西400m、南北450m以上、20万m<sup>2</sup>。屋根や柱などの木材が焼け落ちた状態で出土。墓域がどこにあったのか不明。壺、高杯、鉢などの土器とともに勾玉、管玉、ガラス小玉などの装飾品や中国製の銅鏡である方格規矩四神鏡の破片など。 出原恵三2009『南国土佐から問う弥生時代』田村遺跡 新泉社

弥生後期における最大の問題点は、横手地区の竪穴住居跡群の発掘と後漢鏡の発見。後漢鏡は、弥生中期末～後期初頭に、この地方に伝えられた舶載鏡とみてよからう。この破損鏡が溝状遺構に放棄され、竪穴住居跡に硬玉勾玉が放棄されるのは弥生後期前半から後半へ移り変わる時とみなされる。これは横手式土器が姿を消し、新たな土器型であるヒビノキI式土器の出現する段階とみてよい。ヒビノキII式土器の段階における鉄器の大量使用は、広大な水田開発をなすため、農業生産量を拡大し、さらに人口の増加、集落の膨大化を引き起こしたと考えられる。ヒビノキI式・II式は、高知県中央部より東に分布し、西部には分布しない。しかも両式土器は畿内からの影響とみられる土器の叩き技法を持っている。この叩き技法と共に、多量の鉄器、さらに銅鐸のうち突線紋の4式は、畿内から土佐に移入されたものではなかろうか。古墳時代前期のヒビノキIII式土器

岡本健児1983「土佐考古学の諸問題」『高知の研究(地質・考古篇)』清文堂



弥生時代385地点

元データは位置情報を付けた歴史課の初期データで散布地も含んでいます。複数の時代にわたっている遺跡は、歴史課の分類にしたがっていませんので、あくまでも目安でございます。

## 旧石器時代

- 1、掲載遺跡一覧
  - 遺跡・・・頁
  - 遺跡・・・
  - 遺跡・・・
  - 遺跡・・・
  - 遺跡・・・
  - 遺跡・・・
  - 遺跡・・・

- 2、総括・・・頁

掲載遺跡マップ

9. ナシケ森遺跡と周辺の旧石器時代遺跡（楠多郡大月町弘見）

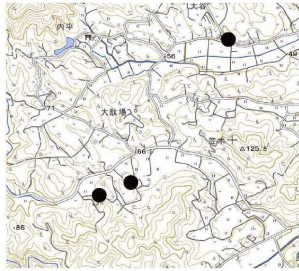
ナシケ森遺跡、ナシケ森II遺跡、大内遺跡

1. 遺跡の概要

楠多郡大月町弘見に所在する。旧石器時代の遺跡は、弘見宇ナシケ森のナシケ森遺跡とナシケ森II遺跡（ナシケ森第2地点遺跡）、弘見宇大内にある大内遺跡の3遺跡である。

周辺には標高50～100m前後の低丘陵が点在し、丘陵に挟まれて谷底平野が形成される。ナシケ森遺跡はこれらの丘陵の一つにあり、標高約65～85mの斜面とその周辺に立地する。谷を挟んで対岸の丘陵上にナシケ森II遺跡が、直線距離で北東に約1.2km離れた丘陵先端部に大内遺跡がある。

ナシケ森遺跡は、1993年山口将仁氏により発見された遺跡である。大月町教育委員会による学術発掘調査が1994～1996年度までの3年（第1次～3次調査）、県営は場整備計画に際して事前の試掘調査



第1図 ナシケ森遺跡・ナシケ森II遺跡・大内遺跡 位置図 (S-1/25,000)

旧石器時代レイアウト見本



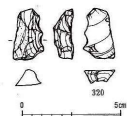
第2図 ナシケ森遺跡A地点（珪質頁岩露頭）

発掘調査は2年にわたり行われた。遺跡の山側をA地点、谷を挟んで200～300m離れた丘陵先端をB地点、その間に挟まれた谷の山部分（は場整備対象地）をC地点として調査は進められた。B地点に連なる丘陵部がナシケ森II遺跡（第2地点遺跡）である。

旧石器時代の遺物は採集によるものが大半だが、発掘調査でB地点からナイフ形石器が1点（第3図）出土している。

斜面部からは石器を中心とした遺物が多量に出土し、縄文早期の複形石器などの石器類が確認されている。石核、原石も多数含まれており、縄文時代の石器製作地、珪質頁岩の原産地遺跡であることが明らかになった。

発掘調査出土品以外に、ナシケ森遺跡からは細石刃核の打面再生剥片と細石刃核フランクが、ナシケ森II遺跡からはナイフ形石器、角錐状石器、細石刃核、スクレイパーが、大内遺跡からは翼状剥片が採集されている。



第3図 発掘調査で出土したナイフ形石器 (S-1/2)

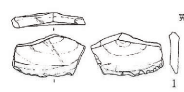
陵が主な生活場であり、谷を挟んだ斜面は珪質頁岩が潤沢に存在する石材獲得のための場だったのではないかと推測される。東西250m、南北150m、約3万坪ほどの範囲を一連の遺跡と捉えることもできる。

大内遺跡からは大月町内陸部ではじめてとなる瀬戸内技法関連遺物（翼状剥片）が確認された。当地では最も古い時期の資料である。四国西南部の同時期の他遺跡同様、石材は頁岩である。

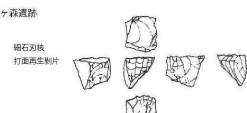
引用・参考文献

- 山口将仁1997「高知県下の旧石器と複形石器（1）・（2）」『旧石器考古学』54号・55号
- 2001「ナシケ森遺跡」高知県楠多郡大月町教育委員会
- 木村剛朗2003「南四国の後期旧石器文化研究」楠多町文研

大内遺跡



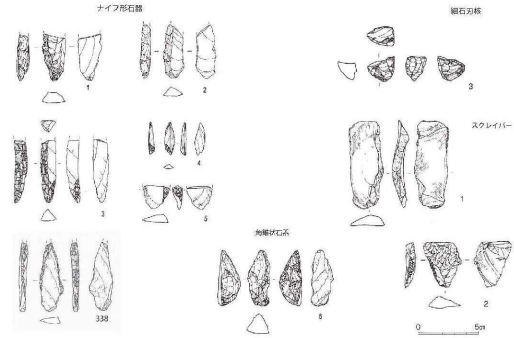
ナシケ森遺跡



ナシケ森II遺跡



旧石器時代レイアウト見本



第6図 大内遺跡、ナシケ森遺跡、ナシケ森II遺跡で採集された旧石器時代の資料 (S-1/3)

旧石器時代特別項目（特論）

2. 調査報告（「若宮ノ東遺跡出土の刻書土器」の調査方針について）

(1) 目的

令和7年1月の「若宮ノ東遺跡III」（高知県文化財団埋蔵文化財センター）で、国立歴史民俗博物館名誉教授平川南氏の刻書へのコメントが掲載され、県外にも広がるニュースとなりました。考古部会では泉史に、この土器が出土した歴史的な意義を叙述することが必要であると考えました。

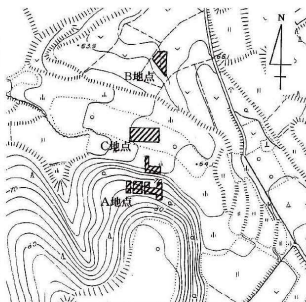


(2) 調査の経過と方針

3月からセンターと共同で、この土器が発見された時の（写真）若宮ノ東遺跡出土刻書土器状況を検討し、現時点ではこの土器の年代を、およそ3世紀頃と考えています。今後は自然科学的調査を進め、年代と土器の産地を詳細に検討したいと思います。

ちなみにこの頃から畿内では古墳が造られ始めます。高知県でも弥生時代から古墳時代へ社会が変化する時期とされ、県外からの土器が多くみられます。ただし5世紀までは高知県の古墳の発見は極めて少なく、古墳時代前半の高知県は、畿内とは異なる独自の社会と文化を持っていたようです。考古部会ではこのような状況をふまえ、この土器が高知県を訪れた新しい時代を具体的に示し、また畿内と異なる独自の社会と文化を示す象徴と考え、あらためて周辺の遺跡と一緒に発見されている様々な資料の調査を総合的に進めています。現在の一つのテーマは畿内以外の地域との関係です。今後、調査を進め、刻書土器が発見された意味、旧石器時代レイアウト見本とは異なっていた古墳時代前半の高知県とはどのような社会だったのかを明らかに出来るよう、調査を進めてまいります。

旧石器時代レイアウト見本



第4図 ナシケ森遺跡発掘調査地点 (S-1/100)

2. 調査研究の成果

珪質頁岩の原産地遺跡として注目を集めた。縄文時代早期が中心の石器原産地であり、斜面部（A地点）から旧石器時代の遺物は出土していない。発掘調査で出土した旧石器はナイフ形石器1点のみ、南東から延びる丘陵先端にあたるB地点試掘トレンチのアホヤ火山灰下層（III層）から出土している。

ナシケ森遺跡からは細石刃核フランク2点と細石刃核の打面再生剥片が、ナシケ森II遺跡からはナイフ形石器6点、角錐状石器1点、スクレイパー2点、細石刃核1点（チャート）が採集されている。ナシケ森の2つの遺跡はナイフ形石器から細石刃核の時期にかけて複数の時期にまたがる遺跡である。

大内遺跡は大月町内を流れ北流して宿毛湾に注ぐ福良川の上流域河階段丘上に位置する。翼状剥片（国府型ナイフ形石器の時期）が採集されている。

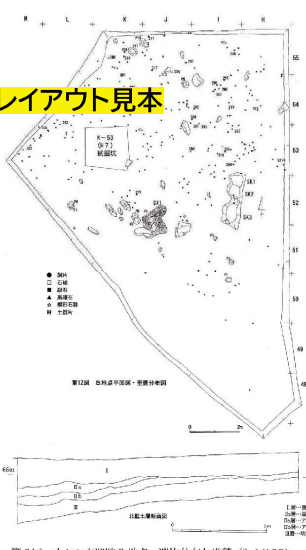
3. 遺跡の価値

ナシケ森遺跡の珪質頁岩の露頭がある斜面周辺から発掘調査で旧石器は出土していないが、細石刃関連遺物は採集されている。2点の細石刃核フランクは分割面を打面にし周縁調整を施す船型細石刃核であり、打面再生剥片は瀬戸内に分布する羽佐島型細石刃核に分類される。

旧石器時代に主に利用されていたのはナシケ森II遺跡で、緩やかに傾斜する尾根にあり、平坦な地形も残っている。ナイフ形石器や角錐状石器、スクレイパー、細石刃核など採集された旧石器は10点を超える。ナイフ形石器には小型のナイフ形石器も含まれるなど、国府型ナイフ形石器に後続する時期と旧石器時代の終わり頃にかけての多様な石器が確認されている。

採集された細石刃核は西日本に広く分布する野岳・依田型であり、ナシケ森遺跡の細石刃関連石器と併せ、当地域の旧石器時代終末の様相説明の手がかりとなる。

旧石器時代には、ナシケ森の細長く延びる丘



第5図 ナシケ森遺跡B地点 遺物分布と地層 (S-1/100)

# 旧石器時代総括

高知の旧石器時代とはどんな時代だったのか

遺跡、遺構、遺物  
地域性  
生活と信仰・環境  
周辺地域との関係  
文化と社会  
年代

## コラム



奥谷南遺跡「遺跡からみた高知」高知県埋蔵文化財センター  
[https://www.kochi-maibun.jp/kochi\\_history\\_detail1.html](https://www.kochi-maibun.jp/kochi_history_detail1.html)

## 1. 刈谷我野遺跡(香美市香北町)

### 1. 遺跡の概要

刈谷我野遺跡は、香美市香北町太郎九字後口屋敷に所在する(第1図)。

縄文時代早期を中心とする集落遺跡であり、香美市物部の白髪山(標高1,770m)に源を発する、物部川中流域左岸の河岸段丘に形成されている。

この遺跡は、古くは太郎丸遺跡と称したが、平成8(1996)年そして平成10(1998)年の試掘確認調査で有数の遺跡であることが判明したことから、地元より刈谷我野遺跡と名称変更する要望があり、現在に至る。



第1図 刈谷我野遺跡位置図(※国土院地図を加工)

### 2. 調査研究の成果

この遺跡では、個人住宅の建築に先立って、平成15(2003)年から平成17(2005)年にかけて記録係を11的とした発掘調査が行われた(第2図)。

## 縄文時代レイアウト見本



第2図 刈谷我野遺跡遺構分布図(香美市教委2007より改変・転載)

# 縄文時代

- 1、掲載遺跡一覧
- 遺跡・・・頁
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・

2、総括・・・ 頁

掲載遺跡マップ

一連の調査においては、地面を掘り込んで作られた生活痕跡が発見された。

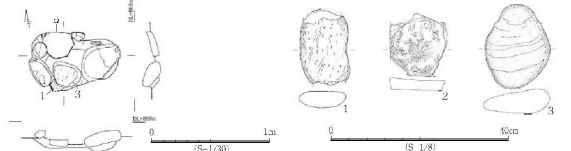
それらの中には、大形のもの(第2図：平成15年度調査区SK2と平成16年度調査区SK1)や、石皿や台石などの石器を配置したもの(第3・4図)が発見された。

これらのほか、ドンクリのように高い殻を外側にもつ種子、つまり堅果類の殻を割ったり、その突をすり潰したりする時に使用した殻石や磨石、そしてそれらを使用する時に台となる石肌や台石といった石器が集中した状態で発見されている。

山土した土器は、無文土器と押型文土器の他、僅かに熱糸文土器が認められる。

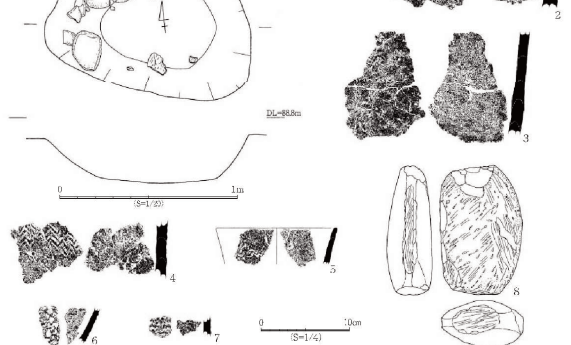
無文土器は、胎土に繊維を混ぜ込んで作ったものが多く、これらは基本的に厚手で、中には2cmを超えるものが認められる(第4図4～11)。

押型文土器は、模様を刻んだ木の板などを土器の表面に回転させて文様をつけており、山形の模様を刻んだもの(第4図12～19)が多い。中には、無文土器のつくりであるのに山形の模様を刻んだもの(第4図13・14)がある。これらの他、楕円形の模様を刻んだもの(第4図20・21)がある。



第3図 刈谷我野遺跡遺物集中23遺構図及び出土遺物図(香北町教委2005より改変・転載)

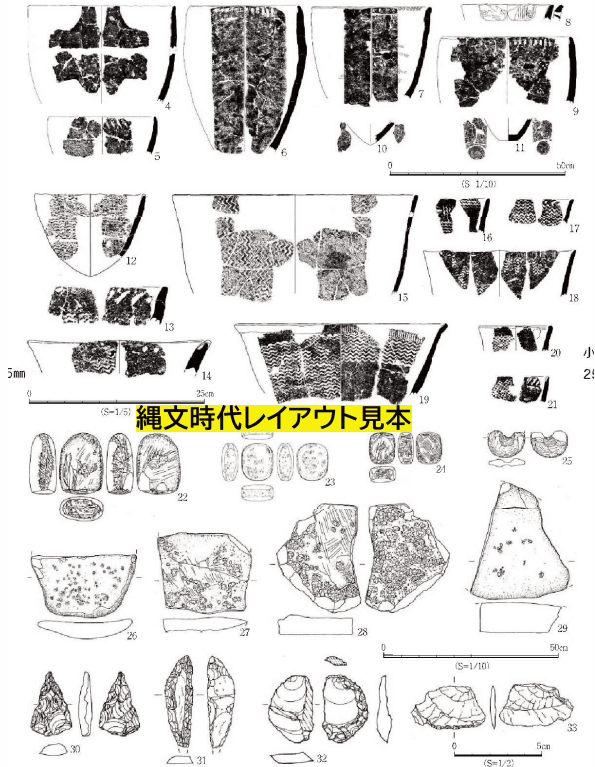
## 縄文時代レイアウト見本



第3図 刈谷我野遺跡遺物集中23遺構図及び出土遺物図(香北町教委2005より改変・転載)

## 縄文時代特別項目(特論)

次に、石器は砥石や磨石そして石皿や台石といった堅果類を加工するものが多数であるのに対し、石鏃などの狩猟に使う道具は数少ない。また、函形石鏃に似た形状の礫石(第4図23・24)は南九州で多く見られるが、山陰や近畿中央でも出土しており、広範囲で一時的流行する石器として考えられる。



第4図 刈谷我野遺跡出土遺物図(香北町教委2005と香美市教委2007より改変・転載)

21

## 2. 調査報告(「若宮ノ東遺跡出土の刻書土器」の調査方針について)

### (1) 目的

令和7年1月の『若宮ノ東遺跡Ⅲ』(高知県文化財埋蔵文化財センター)で、国立歴史民俗博物館名誉教授平川南氏の刻書へのコメントが掲載され、県外にも広がるニュースとなりました。考古部会では泉史に、この土器が出土した歴史的背景を叙述することが必要であると考えました。

### (2) 調査の経過と方針

3月からセンターと共同で、この土器が発見された時の(写真)若宮ノ東遺跡出土刻書土器状況を検討し、現時点ではこの土器の年代を、およそ3世紀頃と考えています。今後は自然科学的調査を進め、年代と土器の産地を詳細に検討したいと思います。

ちなみにこの頃から畿内では古墳が造られ始めます。高知県でも弥生時代から古墳時代へ社会が変化する時期とされ、県外からの土器が多くみられます。ただし5世紀までは高知県の古墳の発見は極めて少なく、古墳時代前半の高知県は、畿内とは異なる独自の社会と文化を持っていたようです。考古部会ではこのような状況をふまえ、この土器が高知県を訪れた新しい時代を具体的に示し、また畿内と異なる独自の社会と文化を示す象徴と考え、あらためて周辺の遺跡と一緒に発見されている様々な資料の調査を総合的に進めています。現在の一つのテーマは畿内以外の地域との関係です。今後、調査を進め、刻書土器が発見された意味を日本列島と東アジアの歴史の中で検討し、畿内とは異なっていた古墳時代前半の高知県とはどのような社会だったのかを明らかに出来るよう、調査を進めてまいります。



## 縄文時代レイアウト見本

23

最後に、放射性炭素年代測定値である。全てで6点について値が得られている(第1表)。最も古い年代値は、通し番号5の8895±40<sup>1</sup>C.B.P.であり、通し番号2から4はそれと重なる年代値を示している。

これに対して、最も新しい年代値は通し番号4の8580±45<sup>1</sup>C.B.P.であって、通し番号1と5そして6はそれと重なる年代値を示している。

このことは、当遺跡が営まれていた時期を大きく2つに分けることができる可能性を示しており、無文土器と押型文土器を巡る問題を考察していく上で有用と思われる。

第1表 刈谷我野遺跡の放射性炭素年代測定値 概(香北町教委2005と香美市教委2007より転載)

通し番号	試料番号	測定機関番号	δ13C(‰)	14C炭素年代(B.P.)	暦年修正年代		備考
					(CalAD)1σ	採率(%)	
1	No.1	Beta-198719	-26.0	8820±60	8170-8120	68.0	2003年度SK2出土炭化種子 【刈谷我野遺跡Ⅰ】所収
					7990-7780	95.0	
					8210-7720		
2	KCKH34	Beta-210497	-26.4	8630±40	7730-7585	95.4	2003年度Ⅱ区第3層出土土器付骨物 【刈谷我野遺跡Ⅱ】所収
					7970-7695	1.7	
					8230-7935	93.9	
3	H6411 61	JITC-08932	-26.4	8730±60	9550-9270	60.4	2003年度SK2出土炭化材 【刈谷我野遺跡Ⅱ】所収
					7707-7695	1.7	
					8230-7935	93.9	
4	KCKH42	MTC-06735	-26.7	8580±45	7930-7920	9.2	2005年度第4層出土炭化材 【刈谷我野遺跡Ⅱ】所収
					7883-7880	0.3	
					8205-8190	64.0	
5	KCKH43	MTC-07114	-29.0	8895±40	8120-7970	25.3	2005年度第1層出土炭化材 【刈谷我野遺跡Ⅱ】所収
					7420-7315	9.8	
					7895-7840	5.3	
6	KCKH44	FLD-6299	-26.9	8860±25	8205-8190	64.0	2005年度第1層出土炭化材 【刈谷我野遺跡Ⅱ】所収
					7420-7315	9.8	
					7895-7840	5.3	

22

### 3. 遺跡の価値

高知県内における縄文時代レイアウト見本。れた段階は、刈谷我野遺跡の調査が行われるまでは、小笠原石室洞窟(佐川町、国史跡)と刈谷石室洞窟(香美市土佐山田町)といった閉鎖的な空間で語られてきた。

これに対して刈谷我野遺跡は、河岸段丘という開放的な空間で営まれた遺跡であって、石器組成においても、石鏃と礫類に比べ砥石が多いなど、山陰洞窟遺跡の類と異なっている。このことより刈谷我野遺跡は、高知県内の縄文時代早期における生活様式には異なりがあることを示した遺跡として位置付けることができる。

この生活様式の異なりについて、堅果類と狩猟に着目するならば、そこには寒冷期と温暖期という季節の違いがある可能性が考えられる。

季節の違いによる生活様式の異なりについては、刈谷我野遺跡と近い時期の、岡山県岡山市所在の犬島貝塚でも見ることができ、そのヤマトシジメは春から初夏にかけて採取されたことが明らかになっている。しかし、その季節以外の営みを見ることはできない。

よって、犬島貝塚同様に、刈谷我野遺跡を営んだ縄文人は寒冷期は刈谷我野遺跡で過ごし、温暖期にはそことは異なる場所で生活を営んだ可能性が考えられる。

### 引用・参考文献

- 香北町教育委員会 2005 『刈谷我野遺跡Ⅰ』
- 香美市教育委員会 2007 『刈谷我野遺跡Ⅱ』

22

## 縄文時代総括

### 高知の縄文時代とはどんな時代だったのか

遺跡、遺構、遺物  
地域性  
生活と信仰・環境  
周辺地域との関係  
文化と社会  
年代

### コラム



居徳遺跡群から出土した木胎漆器「遺跡からみた高知」高知県埋蔵文化財センター  
[https://www.kochi-maibun.jp/kochi\\_history\\_detail1.html](https://www.kochi-maibun.jp/kochi_history_detail1.html)

24



## 弥生時代総括

高知の弥生時代とはどんな時代だったのか

遺跡、遺構、遺物  
地域性  
生活と信仰・環境  
周辺地域との関係  
文化と社会  
年代

### コラム



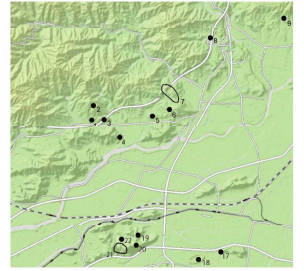
天崎遺跡出土 銅矛「遺跡からみた高知」高知県埋蔵文化財センター  
[https://www.kochi-maibun.jp/kochi\\_history\\_detail1.html](https://www.kochi-maibun.jp/kochi_history_detail1.html)

29

## 定林寺芝の前1号墳 南州市岡豊町定林寺

### 遺跡の概要

定林寺芝の前1号墳は高知市との市境から南州市側へ1.5kmのところに位置し、四国山地の南端にある谷部に突き出た尾根状にある。1号墳を含む定林寺芝の前古墳群は3基の古墳からなり、いずれも横穴式石室を埋葬施設とする後・終末期古墳である。1号墳がもっとも残りがよく、高知大学によって2次におわたる調査が行われている。



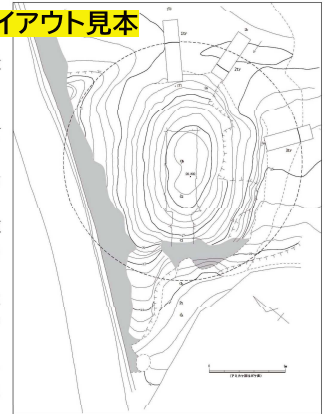
定林寺芝の前1号墳の位置

### 遺跡の内容

定林寺芝の前1号墳は直径16mの円墳の可能性が高い。古墳のある尾根は北が高く南に低い。その高い北側部分のみ溝をほって古墳を区画する。墳丘の中心に横穴式石室があり、石室規模は全長7.29m・玄室長5.43m・玄室幅(奥壁側)1.97m・玄室幅(玄門側)2.02m・玄室高(最大)2.57m・羨道残存長1.87m・羨道幅1.36mである。いわゆる舟岩古型石室で、玄室面積約11.8㎡は高知では大型石室に分類される。石室床面は何度かの盗掘を被っていたが、奥壁付近以外は敷石が遺存している。玄門部には横長の仕切り石がある。石室米道中ならびに床面上から数多くの副葬品が出土している。出土した副葬品をまとめると以下の通りである。

### 古墳時代レイアウト見本

武器：刀装具(鏝1点・鞘口金具1点)。鉄鍬6点。  
馬具：轡1個体分・辻金具6点・同脚部破片12点・鉸具3点・鉾1点  
工具：刀了5点  
装身具：耳環9点(うち1点は馬具片の可能性がある)  
玉類16点(小玉13点・管玉2点・水晶切子玉1点)  
土器：須恵器(蓋2点・短頸壺1点・長頸壺1点・高杯1点・無蓋高杯1点・甕1点ほか)  
土師器鉢1点  
また、墳丘第2トレンチから環付足金具1点が出土している。おそらくは盗掘を経て石室の外へ持ち出されたものであろう。  
とくに注目されるのは、刀装具であろう。鏝・鞘口金具に象嵌が認められ、高知県では初めての象嵌刀装具例となった。  
副葬品から見れば、TK209型式期からTK217



定林寺芝の前1号墳の墳丘

31

## 古墳時代

### 1、掲載遺跡一覧

- 遺跡・・・頁
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・
- 遺跡・・・

### 2、総括・・・ 頁

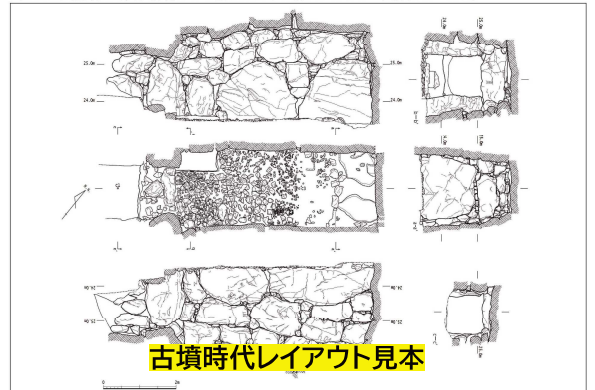
掲載遺跡マップ

30

型式期までの資料を含んでいる。耳環が8ないしは9個出土しているので、数人の埋葬があった可能性があり、副葬品の時期幅を考慮すると世代を超えた追葬があったと考えられる。

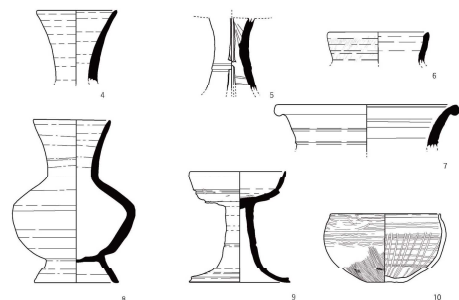
### 古墳の意義

等考の分析によれば、玄室面積10㎡以上の大型の舟岩型石室は、河川や丘陵で区画される領域を治める地域首長墓である(清家2007)。さそうように考えると本古墳は地域首長墓格の古墳と言える。出土した武器類と馬具、脚付きの土器などはその格にふさわしい副葬品といえる。



### 古墳時代レイアウト見本

定林寺芝の前1号墳横穴式石室



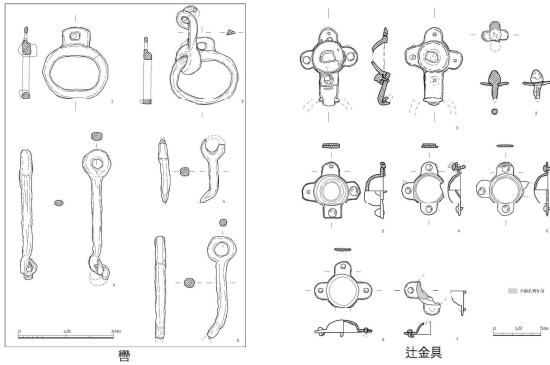
定林寺芝の前1号墳横穴式石室出土土器

32

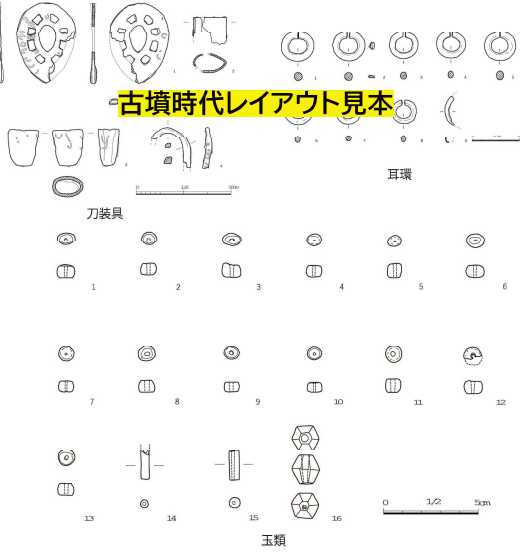
## 古墳時代総括

高知の古墳時代とはどんな時代だったのか

遺跡、遺構、遺物  
地域性  
生活と信仰・環境  
周辺地域との関係  
文化と社会  
年代



### 古墳時代レイアウト見本



### コラム



古津賀遺跡(四十万市)の様子「遺跡からみた高知」高知県埋蔵文化財センター  
[https://www.kochi-maibun.jp/kochi\\_history\\_detail1.html](https://www.kochi-maibun.jp/kochi_history_detail1.html)

## 古墳時代特別項目(特論)

### 2. 調査報告(「若宮ノ東遺跡出土の刻書土器」の調査方針について)

#### (1) 目的

令和7年1月の「若宮ノ東遺跡Ⅲ」(高知県文化財団埋蔵文化財センター)で、国立歴史民俗博物館名誉教授平川南氏の刻書へのコメントが掲載され、県外にも広がるニュースとなりました。考古部会では県史に、この土器が出土した歴史的な意義を叙述することが必要であると考えました。

#### (2) 調査の経過と方針

3月からセンターと共同で、この土器が発見された時の(写真)若宮ノ東遺跡出土刻書土器状況を検討し、現時点ではこの土器の年代を、およそ3世紀頃と考えています。今後は自然科学的調査を進め、年代と土器の産地を詳細に検討したいと思います。

ちなみにこの頃から畿内では古墳が造られ始めます。高知県でも弥生時代から古墳時代へ社会が変化する時期とされ、県外からの土器が多くみられます。ただし5世紀までは高知県の古墳の発見は極めて少なく、古墳時代前半の高知県は、畿内とは異なる独自の社会と文化を持っていたようです。考古部会ではこのような状況をふまえ、この土器が高知県を訪れた新しい時代を具体的に示し、また畿内と異なる独自の社会と文化を示す象徴と考え、あらためて周辺の遺跡と一緒に発見されている様々な資料の調査を総合的に進めています。現在の一つの古墳時代レイアウト見本、調査を進め、刻書土器が発見された意味を日本列島と東アジアの歴史の中で検討し、畿内とは異なっていた古墳時代前半の高知県とはどのような社会だったのかを明らかに出来るよう、調査を進めてまいります。



### 古墳時代レイアウト見本

## 第1編 総括

### 1. 現象の客観的な確認

旧石器時代から古墳時代へ、高知の歴史はどのように変わっていったのか

### 2. 現象の歴史的な解釈

それは周辺地域との関係を含めた日本歴史のなかでどのように位置づけられるか  
+古代へ向けて

### 3. 本編への誘い

#### 弥生・古墳時代における太平洋ルートの 文物交流と地域間関係の研究

研究代表者 清家章2010

- |                              |                   |      |
|------------------------------|-------------------|------|
| 1 弥生文化成立期の二相                 | 田村タイプと屈徳タイプ       | 出原恵三 |
| 2 石器からみた弥生時代開始期の交流           | 一面日本太平洋沿岸地域を中心として | 寺前直人 |
| 3 青銅器から見た古墳成立期の太平洋ルート        |                   | 堀永伸哉 |
| 4 高知県地域における甕形土器と甕の動向         |                   | 杉井 健 |
| 5 古墳時代交流の豊後水道・日向瀬ルート         |                   | 橋本達也 |
| 6 古墳時代終末期における日本列島周縁部の太平洋沿岸交流 | 一胡舞刀剣をもとに         | 菊地芳朗 |
| 7 横穴式石室にみる南四国太平洋沿岸地域の関係      |                   | 清家 章 |
| 8 古墳時代の東海における太平洋沿岸交流の隆盛      |                   | 鈴木一有 |

7世紀において紀伊の岩橋千塚古墳群が衰退したと述べたが、岩橋千塚古墳群は紀氏の奥津城であったと考えられる。紀氏は畿内政権下において瀬戸内航路を掌握した氏族である(岸1963・柴原1999)。それに代わるように新興勢力が紀伊から瀬戸内の盟主的地位を占めたことから、当時の交通の大動脈である瀬戸内の交通路の掌握についても、新興勢力が大きく関わることになったことは想像に難くない。瀬戸内の交通路は(図36)。そこに新興勢力が台頭すなわち角塚型石室墳で認められる。  
朝倉古墳はそうした瀬戸内をめぐる勢力交替にかかわって、土佐で盟主権を握った新興首長の墓だと評価できるであろう。(本章はすべて清家)

高知大学人文学部考古学研究室2012『古墳時代終末期の大型横穴石室にみる瀬戸内とその周辺の政治的関係』

2026年2月19日

## 高知県立歴史民俗資料館における古墳時代鉄器の調査報告

清家章（考古部会）

高知県立歴史民俗資料館所蔵・保管古墳時代鉄器の調査を実施した。以下、その成果を簡単に報告する。

### 1. 調査実施日

2025年11月14日

### 2. 場所

高知県立歴史民俗資料館

### 3. 調査者

清家章・ライアン＝ジョセフ（岡山大学准教授）・岡山大学学生1名

### 4. 調査資料

舟岩古墳群出土鉄器・小蓮古墳出土鉄器・蒲原山東1号墳出土鉄器・新改古墳・西ノ内2号墳、詳しくは別添表の通り

### 5. 調査概要

上記古墳出土鉄器（計210点）の現状を把握した。多くが保存処理をされている状態で、現時点でも図化と写真撮影に堪えることができる資料がほとんどである（図1・2）。それは良いことでもあるが、過去の報告書では図面・写真がない資料が多く、また図面があっても現在の研究レベルにない図面が多い。210点中184点の図化を行う必要がある。これだけ多数の資料を2年間で図化することはほぼ無理である。3次元計測や委託などの対策を考える必要がある。とくに小蓮古墳・舟岩古墳群は高知県を代表する古墳と古墳群であることから、早急に対応を考えたい。調査の過程で、舟岩古墳群出土馬具について重要なことが判明しているのとくに報告する。保管されている馬具と出土したとされる古墳の番号に齟齬があるものと考えられる。現在、5号墳出土馬具と9号墳出土馬具とされる轡は2号墳のそれである。また、出土の存在は知られながらも宮代・栗林2004では不明とされた3号墳出土馬具の存在も確認した。上記の通り5号墳と9号墳とされた馬具は2号墳の馬具であったため、それぞれの馬具の存在が課題となるが、少なくとも5号墳の馬具はほぼ特定できた。1号墳出土轡の現形については更に検討を進めたい。

参考文献

宮代栄一・栗林誠治 2004 「高知県出土の馬具の研究」『青藍』第2号 考古フォーラム蔵本



図1 舟岩古墳群出土轡（高知県立歴史民俗資料館蔵）



図2 舟岩古墳群出土轡（高知県立歴史民俗資料館蔵）

古墳名	遺構名	遺物	点数	備考	要図化
舟岩古墳群	1号墳	金環	3		●
		鉄刀	1	広田1968 p.90,図1-1	●
		辻金具	1	宮代・粟林第2図-7	
		ウズ	1	宮代・粟林第2図-4	
	2号墳	轡	1	宮代・粟林第3図-1	
		轡	1	宮代・粟林第3図-3	
		鈿	1	広田1968 p.90,図1-10 (箱12-1)	●
	3号墳	「ツバゼリ」	1	広田1968 p.90,図1-12 (箱12-1)	●
		金環	2		●
	5号墳	鈿	1	広田1968 p.90,図1-11 (箱12-1)	●
		轡		宮代・粟林第4図-1	
	9号墳	馬具一式	9	宮代・粟林第4図-2~10	
		金環	1	注記：9-4	●
	11号墳	轡	1	宮代・粟林第4図-1	
		金環	1	注記：11-8	●
	?	金環	1	注記なし	●
		10号墳	鉄器：注記：「10」	4	
	鉄器：注記：「10号」		2	コロク金具？とヤリガンナ？が含まれている	●
	鉄器：注記：「10-3」		1		●
	鉄器：注記：「10-4」		1		●
	鉄器：注記：「10-6」		1		●
	6号墳	鉄鏃	1		●
		鉄鏃：注記：「8号」	1		●
	8号墳	鉄鏃：注記：「8-7」	1		●
		鉄鏃：注記：「8-9」	1	広田1968 p.90,図1-5	●
		鉄鏃：注記：「8-25」	1		●
		鉄鏃：注記：「8-31」	1		●
		鉄鏃：注記：「8-35」	2	広田1968 p.90,図1-4 (平根系の方)	●
		鉄鏃：注記：「8-38」	1		●
		馬具と鉄刀鈿が入っている木箱「18」	7	広田1968 p.90,図2に実測図あり (3号轡を含む)	●
	5号墳	鉄鏃：注記：「5-23」	1		●
		鉄鏃：注記：「5-24」	2		●
		鉄鏃：注記：「5-26」	2	同一個体	●
		鉄鏃：注記：「5-27」	1		●
		鉄鏃：注記：「5-35」	3		●
	12号墳				
	その他	鉄器、注記：「舟岩」	45	中に筒鏃や引手つばいものが含まれる	●
		鉄刀、刀子、鈿	6		●
		彫形環状鏡板	1	宮代・粟林第3図-2	
		馬具	4	宮代・粟林第4図-11~14	
	色々	耳環	25		●
		玉類	10	勾玉1点、棗玉1点、管玉3点、丸玉5点	●
	箱10	鈿	1		●
		鉄鏃	5		●
	箱12-1	刀子	12		●
		鉄鏃	10		●
箱12-2	ヤリガンナ	1		●	
	馬具、鉄刀ほか	13	耳環2点、轡6点、刀5点	●	
小蓮古墳	辻金具 (2片：鉢と脚)	1	宮代・粟林p.23 第7図-2、広田1972 第5図-10		
	飾金具	1	宮代・粟林p.23 第7図-5、広田1972 第5図-11		
	カコ	1	宮代・粟林p.23 第7図-3、広田1972 第5図-13		
	シオデ	1	宮代・粟林p.23 第7図-4、注記：5-15		
	鉄鏃	1	注記：5-?	●	
	鉄鏃	1	広田1972 第5図-7	●	
	鉄鏃	1	広田1972 第5図-6	●	
	刀子 (切先)	1	広田1972 第5図-3	●	
	刀子 (関～茎、上記と同一個体か)	1	広田1972 第5図-8	●	
	鉄鏃	1	広田1972 第5図-5	●	
	不明鉄器	1	広田1972 第5図-12	●	
	不明鉄器	1	広田1972 第5図-9 (* 広田1972 第5-1.2.4.14の現物がない)	●	
	蒲原山東1号墳	鉄鏃	1	報告22集1979：第9図-4	●
U字刃先 (小片)		1	報告22集1979：第9図-1	●	
鉄鏃・工具一式		9	報告22集1979：第9図・第10図 (鉄斧2点・鏃先1点寄託資料)	●	
新改古墳	兵庫鎖の破片	15	宮代・粟林p.26-27 第9図1-15		
	釣り手金具	2	宮代・粟林p.26-27 第9図16-17		
	両頭金具	1		●	
	刀子	1		●	
	鉄鏃	18		●	
	耳環	3		●	
西ノ内2号墳	玉類	8		●	
	鉄鏃4点、石突1点、小札か1点	6	要X線	●	

## 古代関連資料調査報告

大橋、池澤、香川、油利、松村

日程：2025年10月31日から11月1日

### 10月31日：野田廃寺出土遺物の調査

高知県埋蔵文化財センター、高知県立歴史民俗資料館で出土瓦、埴仏の資料調査を行った。

#### 軒丸瓦

これまで指摘されてきたように、瓦当紋様から高知市秦泉寺廃寺の系譜を引くことを確認した。報告書では瓦範は2種あるとされたが、検討した結果、瓦範は一つと判断した。明瞭な範傷は認められない。枷型の使用はない。軒平瓦は伴わない。

製作技法では、瓦当と丸瓦の接合部に補充粘土が、瓦当裏面全体に粘土板一枚をあて、そこから指などで引き上げるやり方が特徴である。祖系の阿波立善寺廃寺2型式、土佐国分寺創建期の軒丸瓦3類（文様の祖系は比江廃寺）に認められる。



野田廃寺の軒丸瓦



参考：阿波立善寺廃寺2型式、秦泉寺廃寺と共通する瓦当裏面に粘土を補充（大橋撮影）

#### 平瓦

平瓦は全て平瓦桶巻作り（布のあわせ、粘土板合わせ）。一枚作りはない可能性が高い（全ての資料を見ていないので課題）。凸面の叩きは、格子叩きと縄叩き。格子叩きは、大きな格子と小さなものと2種。大きな格子叩きはまばらに叩くのが特徴。縄叩きは短縄叩きで全面。

平瓦の規格は、大型品は43センチ、中型品40センチ、小型品38センチあり。大きくみると大型43センチと小型38から40センチ。

台形桶（格子叩き・大小、縄叩き）だけでなく、円筒桶（格子叩き・小）もある。円筒桶は規格が大と小あり、ともに格子叩き・小で共通。円筒桶、同じ桶か別の桶か不明である。

→秦泉寺廃寺の平瓦の規格も大小の2種で野田廃寺と同じであり、同一の桶を使用した可能性がある。秦泉寺廃寺の平瓦桶との検討が必要である。



平瓦の大小：台形桶の大小



平瓦の大小：円筒桶の大小

### 丸瓦

無段式のみ。軒丸瓦 2 点の全長 40 センチ。

### 埴仏

観察と写真撮影を行った。早稲田大学教授の城倉正祥先生に写真を送付したところ、四国では他に香川県で埴仏出土例があるだけとのこと。野田廃寺例と同範や同型は知られておらず、図像の感じは愛知県音楽寺の独尊埴仏、富山県石名田木舟遺跡に少し似ている。畿内の資料では似たものを知らないとのことご教示をいただいた。

### 野田廃寺の資料調査成果

軒丸瓦は、瓦当文様から、これまで阿波立善寺廃寺を祖系とし秦泉寺廃寺を経て、野田廃寺・大寺廃寺とされてきた。今回も追認した。ただし、瓦範が複数あるとなっていた点については、野田廃寺の瓦範は一つだけと修正できた。加えて、軒丸瓦の製作技術から、阿波立善寺廃寺、秦泉寺廃寺、野田廃寺、土佐国分寺は共通した特徴を持つ点を初めて確認した。

野田廃寺の年代について、SX101, 102 の土器類からみると 8 世紀前半（池澤）であり、それ以前に位置付けられる。一枚作りの平瓦を含めて、補修瓦が確認できない。土器類は 8 世紀代でまとも、8 世紀末以降の土器類は目立たない。寺の存続年代は奈良時代が中心とみられる。

なお、縄叩き平瓦（明黄灰色）が胎土・焼成・色調が他と異なり、わずかな年代差を示す可能性もあるが、今後の課題である。

## 11月1日：土佐国府関連遺跡および竹林寺の現地視察

油利氏と一緒に土佐国府関連の現地視察を行った。



土佐国衙跡の現地視察



大津(推定地)の現地視察

竹林寺の現地視察

### 課題と今後の調査について

野田廃寺について、軒丸瓦の瓦当紋様、平瓦の特徴から、秦泉寺廃寺、大寺廃寺との共通性が高い点を確認したが、同一工人による製作かは不明である。今後、秦泉寺廃寺、大寺廃寺出土瓦の資料調査を行い、野田廃寺出土瓦類との比較検討を行う予定である。

野田廃寺出土の埴仏は四国では他に香川県で出土例があるだけであり、3D撮影で三次元化するなどして、図の再検討が必要である。鋤柄部会長が三次元化を行うことになった。

土佐国衙跡について、古代国府としての可能性について報告書と出土遺物の検討を来年度に実施する予定である。

山林寺院については、今後、集成作業を行い、資料調査等の計画を立てる予定である。

# 鹿児島焼窯跡出土資料の調査

追川吉生

調査日 2025年10月31日（高知市遺物整理所）・11月29日（高知県立歴史民俗資料館）

## 1 調査の目的

鹿児島焼は高知県高知市大津に所在した、「カラツ山」と呼ばれた丘陵地の突端部に構築された陶磁器を生産した窯跡である。操業期間は1872年（明治5）～1887年（明治20）で、1877年（明治10）頃に高知県から2,000円の下渡金を受けて大窯へと改め、磁器生産を開始したといわれている。鹿児島焼窯については1979年（昭和54）に窯跡の一部で宅地造成がなされることを契機として、高知市教育委員会によって発掘調査が行われた（高知市教育委員会1982・9図）。

2025年（令和6）10月31日に、この発掘調査で出土した遺物を対象として資料調査を行った。また出土遺物との比較検討を行うことを目的に、同年11月29日に高知県立歴史民俗資料館にて、同館の民俗資料として収集されている鹿児島焼資料についての資料調査を併せて実施した。

なお上述したとおり、鹿児島焼窯の発掘調査は1979年に実施されたものである。近年、全国的に近代遺跡を対象とした調査事例が増加している。文化庁もこうした傾向を踏まえ、今後の埋蔵文化財行政においては近世遺跡とともに近代遺跡も調査や保護の対象とする方針を示している（文化審議会文化部会2024）。本遺跡の発掘調査は、近代遺跡を対象とした発掘調査として全国でもその嚆矢となるものの一つである。高知考古学の先進性を示す事例であるとともに、考古学史的にも極めて貴重なものであると位置付けられる。

## 2 調査の成果

### (1) 陶磁器

発掘調査では磁器609点、陶器150点に加え、窯道具が132点出土している。最も多く出土している遺物は磁器碗で、磁器皿がこれに続く。陶器製品については土瓶や植木鉢が主体で、碗・皿といった食器類はほとんど認められない。

磁器製品には焼成に失敗して変形しているものや、焼成時に重ね置きされた製品同士が溶着した状態のもの（1図）なども目立つ。発掘調査では、一般的な窯跡遺跡にみられるような物原は認められていないが、こうした失敗品は鹿児島焼で生産された陶磁器の器種や形態、施文などを具体的に知ることができる資料である。

磁器の胎土は粗く、やや褐色を帯びた白色を呈しており、絵付けには呉須が用いられている。失敗品と覚しき資料の中には、磁化が不十分なものもみられる（4図）。その一方、胎土が精緻で鮮やかな白色を呈し、人工コバルトによる絵付けがなされているものもある（3図上）。発掘調査報告書では磁器の胎土について、天草の陶石を主とする上質のものと、陶石に粘土を加えた硬質陶器の2つに分類している（高知市教育委員会前掲・2図）。

絵付けについても、呉須のほかに、色絵 26%、転写 17%、金彩 6%という割合が提示されている（高知市教育委員会前掲）。このうち 3 図下の皿は摺絵による絵付けであり、転写とされた資料に該当する。摺絵は明治 10 年代以降にみられる技術である。また色絵については明治 11 年と朱書きされた資料が出土しており、鹿児島が磁器生産を開始して間もない段階から既に、色絵磁器の生産を始めていたことがうかがえる。

今回の調査では、報告書未掲載の資料の中にも紀年銘資料が含まれていることが明らかになった。磁器製の染付香炉で、胎色は青味を帯びた発色だが、胎土はきめの細かい白色を呈して上質であるといえる。高台内に呉須により「宇和嶋/上甲馬（カ） □□用（カ） /明治十二年/卯年」と記されている（5 図）。文字の意味は詳らかでないが、明治 12 年（1879）に宇和島からの注文に応じて製作されたことを示している可能性がある。

こうした鹿児島窯で生産されたことが確実な資料のほかに、今回の調査では生産年代が鹿児島窯の閉窯以降に位置付けられる資料も含まれていることを確認した。閉窯後の窯場では、窯の下端周辺が畑に転用されていたという。したがってこうした遺物は、閉窯から発掘調査が行われるまでの 90 年間に、窯跡周辺から廃棄された陶磁器類が混入している可能性が高い。出土資料の出土位置と窯跡遺構との関係を改めて検討することで、鹿児島窯において生産された陶磁器の変遷を明らかにすることが今後の課題としてあげられる。

## （2）窯道具

発掘調査では陶磁器とともに窯道具が 132 点出土しており、鹿児島の生産のあり方を具体的にうかがうことができる。1 図下に掲載した磁器碗は、本窯において重ね焼が行われたことを示すものだが、窯資料としてツク（土柱・6 図）やハマ、下敷き（座布団）・8 図）などが出土している。特に 3～6 本の脚を持つ天秤（7 図）と呼ばれるハマが出土していることから、天秤積みによる生産が行われていたことがうかがえる（棚板は未出土）。

ツクの中には操業に携わった山崎家の家紋や、「大津邑鹿児島」と文字が彫られたものがある。また菊皿の石膏型も出土しており、焼成段階以前の工程の実態を具体的に知ることができる。

## 3 今後の課題

『大津村史』の聞き取り調査によれば、鹿児島は原料を天草から取り寄せ、職人は阿波・九州から来たという（大津村役場 1958）。しかし近世の高知には、尾戸焼・能茶山焼をはじめとした陶磁器をはじめ、土器や瓦などの焼物生産の伝統がある。特に 1990 年代以降には、尾戸焼・能茶山焼といった生産地遺跡の調査によって高知在地陶器のあり方が考古学的に明らかにされているとともに、高知城下の武家屋敷跡遺跡だけでなく、県内各地で近世遺跡を対象とした発掘調査がすすめられたことにより、近世高知の消費地遺跡の状況も明らかにされている。

こうした近年の近世考古学の成果を踏まえ、近代窯業として創業された鹿児島焼と、近世高知の焼物生産との関係を検証することが必要になってくる。

発掘調査では製品（含未製品）と生産道具が合わせて約 1,000 点出土している。今回の資料調

査で実見できたのはその一部に留まっているが、前述したとおり出土した製品・未製品の中には、操業年代以降に生産されたと考えられる資料も含まれている。遺物の出土位置、特に発掘調査で検出した窯跡との位置関係を検証することにより鹿児焼窯で生産された製品を特定することにより、鹿児焼窯での陶磁器生産の実態や変遷を解明していきたい。

鹿児焼窯の操業は明治初期の15年間と短期間にすぎないが、県からの財政的支援によって磁器生産を始めたことは、本窯が県から殖産興業の一環として捉えられていたことをうかがわせるものである。鹿児焼の産業史上の位置付けについては歴史学との学際的な研究を待たねばならないが、少なくとも本窯の生産のあり方を考古学的に明らかにすることは、高知県の近代工業史の解明に幾許か資することができるものと考えられる。

#### 参考文献

大津村役場 1958 「鹿児焼」 『大津村史』

岡本健次 1983 「土佐考古学の諸問題」 山本 大編 『高知の研究1 地質・考古編』 清文堂出版

高知市教育委員会 1982 『鹿児焼』

文化審議会文化部会 2024 『近世・近代の埋蔵文化財保護について（報告）』

※35-41頁の掲載遺物は高知市所蔵



1 図 変形・熔着がみられる磁器碗



2 図 磁化が不十分な磁器碗とその胎土



3 図 上：磁器碗の多様性 下：擦絵技法による磁器皿



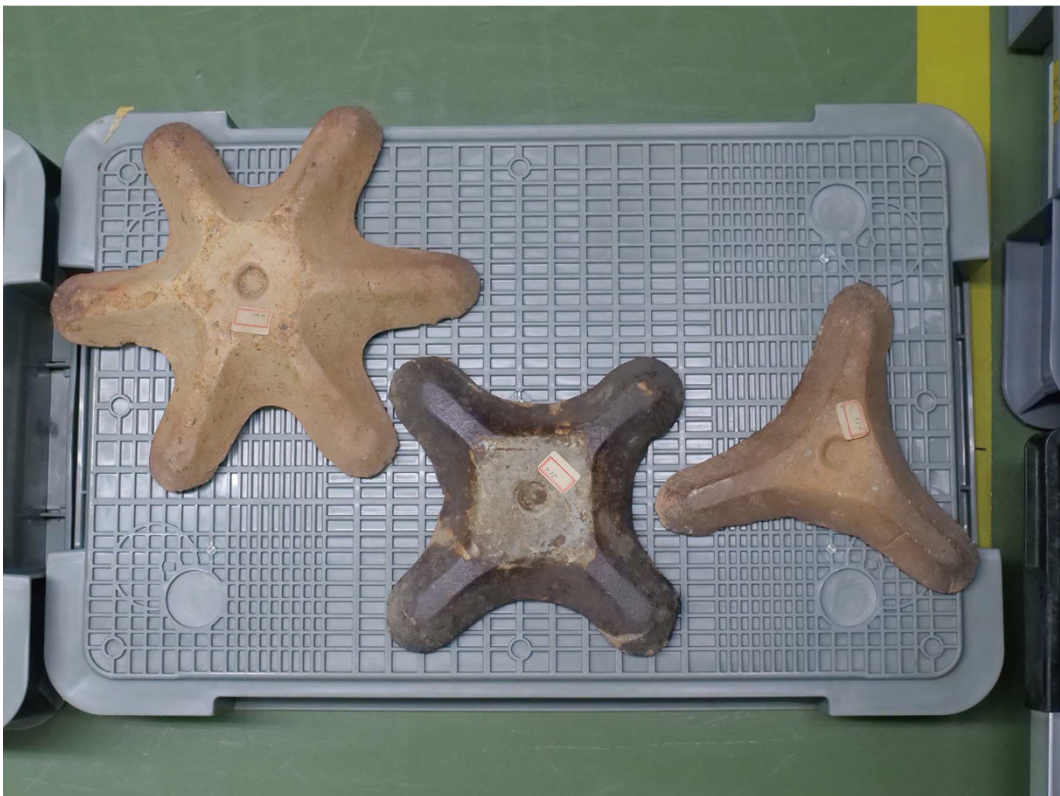
4 図 磁器皿の焼成の違い



5 図 明治 12 年（1879 年）銘のある磁器製香炉



6 图 土柱



7 图 天秤



8図 下敷き（墨書あり）

## 民俗部会 活動報告

## 1. 前回の編集委員会以降の民俗部会

第15回民俗部会（2月18日13時30分～17時 高知本町ビル5階会議室）

- ・資料編1刊行に向けた作業の進捗状況と、執筆、編集のスケジュールについて確認
- ・資料編2「モノと文化（仮）」について協議
- ・本編1、2の構成について協議

## 2. 資料編1『民話・民謡・地名』（令和9年度刊行）に向けて

資料編1は「民話」「民謡」「地名」の三部構成である。民俗部会委員および調査協力員から担当者を決めて作業を進めている。

各章の担当者には、「民話」に常光徹部会長と作家の中脇初枝氏（調査協力員）、「民謡」に神戸大学名誉教授の岩井正浩氏（調査協力員）、「地名」に高知工業高等専門学校准教授の楠瀬慶太氏（調査協力員）が当たっている。今年度は具体的な執筆作業に入るための調査と資料整理を進めてきた。

## 「民話」

- ・構成は現在「民間神話」、「伝説」、「昔話」、「世間話」、「人物譚」の5つの章を設ける計画。
- ・編集に向け、書籍に掲載されている高知県の民話のリスト化作業を、民俗部会担当職員とアルバイトにて進めている。13,801項目(476冊)の民話をリスト化済み(令和8年1月23日現在)。
- ・令和8年1月30日まで、上記で作成した民話リストを元に常光部会長と中脇氏が掲載する民話を予備的に選定。「民間神話」5話 「伝説」21話 「昔話」34話 「世間話」12話 「人物譚」10話  
さらに確認の上、5月までに掲載民話を確定させる。
- ・2月3日 高知市薊野の法経堂の調査を実施。



薊野の宝篋印塔

## 「民謡」

- ・昭和62、63年度に実施された「高知県民謡緊急調査」調査表と、その報告書である『高知県の民謡』を中心に、担当の岩井氏が掲載する民謡を現在計746曲選定済み。また、一部民謡については楽譜を掲載する。
- ・「高知県民謡緊急調査」にて録音されていた音源から、岩井氏が選定したものについて今年度2月までに楽譜化・浄書を完了させた。
- ・岩井氏により、現在本文の解説を執筆中。

## 「地名」

- ・担当の楠瀬氏を中心に、調査編集チームが文献調査や現地調査を実施。
- ・執筆の下敷きとなる地名のデータベース(304語)はほぼ完成済み。最終的に約150語の地名を掲載する予定。

- ・構成としては「総論」、「自然と地名」、「人と地名」の3つの章を設ける。「自然と地名」では地形や風水害、生物に関係する地名を、「人と地名」では歴史的な開拓や集落、交易や生業に関係する地名をまとめる。また、特徴的な地名などについてはコラムとして解説を挿入する。
- ・年度内に執筆準備を整え、4月から執筆を開始する計画。

### 3. 本編第1巻（令和13年度刊行）に向けて

高知県の地域性を「山村」「平地農村」「町と都市」「海村」の章に分け、それぞれにおける民俗の特徴を記述する構成とする予定である。各章の担当者は、「山村」に梅野光興委員。「平地農村」に安室知委員と中村淳子委員。「町と都市」に山本志乃委員。「海村」に川島秀一委員があたる。全体構成や各章の具体的な内容については民俗部会にて、各担当委員の発表をもとに再検討を含めた協議を行っている。

また、序論で高知の自然と風土の特徴について記述する予定で、現在、安室委員を中心として民俗地図の作成と全県的なアンケート調査の準備を進めている。アンケート調査は令和8年度より2年計画で実施する予定。

本編第2巻（令和17年度刊行）についても、第1巻の構成を踏まえながら検討を進めている。

#### 「町と都市」「海村」

- ・2月19日 香南市赤岡町にて民俗調査を実施

#### 「海村」

- ・2月20日 中土佐町久礼にて民俗調査を実施

### 4. 資料編2「民具（仮）」（令和20年度刊行）に向けて

資料編2は中村淳子委員と國學院大學准教授の石垣悟氏（調査協力員）が担当。資料編2の構成を検討するため、令和8年度に県内の民具収蔵施設を担当の委員にて巡検する計画。

### 5. 今後の活動予定

#### 令和8年3月17日 民俗資料編1執筆要領・凡例会議

- ・事務局が作成した案を元に、民俗資料編1の執筆要領と凡例を定め、本格的な執筆開始の準備を整える。

#### 令和8年5月～6月 第16回民俗部会

- ・資料編1の執筆状況について
- ・令和8年度の合同調査・個別調査の予定について
- ・民俗地図作成のためのアンケート調査の実施について
- ・本編第2巻の構成について

## 令和 7 年度文化財部会活動報告（令和 7 年 11 月 8 日～令和 8 年 3 月 2 日）

## 1. 文化財部会の開催について

第 4 回文化財部会：令和 7 年 12 月 12 日（金）13：30～16：00

於：高知県自治会館 6 階会議室

- 協議事項……（1）第 3 回部会協議内容について  
（2）第 1・2 期計画の策定 について  
（3）令和 7 年度調査現状報告 について

- 報告事項……（1）民俗文化財の調査マニュアル・アンケート案について  
（2）事務局業務報告 について

- その他……（1）地域社会の構造的変化と文化財

## 2. 各委員の調査

○天然記念物（地質鉱物） 国県指定 8 件1. 令和 7 年 11 月 26～28 日（水～金）

- ・宿毛市押ノ川 県・天然記念物 宿毛市押ノ川の化石漣痕（昭和 32 年 10 月 22 日指定）
- ・宿毛市橋上町出井<sup>いでい</sup> 県・天然記念物 出井溪谷の甌穴群（昭和 40 年 6 月 18 日指定）
- ・四万十市間崎<sup>まさき</sup> 県・天然記念物 間崎の枕状溶岩（令和 3 年 2 月 24 日指定）
- ・土佐清水市三崎 国・天然記念物 千尋岬<sup>ちひろみさき</sup>の化石漣痕（昭和 28 年 11 月 14 日指定）
- ・土佐清水市浦尻 国・天然記念物 唐船島<sup>とうせんじま</sup>の隆起海岸（昭和 28 年 11 月 14 日指定）
- ・土佐清水市足摺岬 県・天然記念物 白山洞門（昭和 28 年 1 月 16 日指定）
- ・土佐清水市三崎 県天然可燃物 見残湾<sup>みのこしわん</sup>の造礁サンゴ（昭和 39 年 6 月 12 日指定）
- ・高岡郡四万十町小鶴津<sup>こつるつ</sup> 国・天然記念物 小鶴津<sup>おきつ</sup>の興津メランジュ及びシュードタキライト（平成 23 年 2 月 7 日指定）

○天然記念物（植物） 県指定 2 件1. 令和 7 年 12 月 12 日（金）

- ・南国市白木谷 県・天然記念物 白木谷のタチバナ（昭和 39 年 6 月 12 日指定）

2. 令和 8 年 2 月 2 日（月）

- ・四万十市竹屋敷 県・天然記念物 竹屋敷の藤（昭和 32 年 10 月 22 日指定）

○民俗文化財 県指定 4 件

1. 令和 7 年 11 月 29 日 (金)

- ・高岡郡栲原町 県・有形民俗 津野山舞台 (円明寺回り舞台・宮野々回り舞台・三嶋神社回り舞台) (昭和 37 年 1 月 26 日指定)

2. 令和 8 年 1 月 20 日 (火)

- ・宿毛市芳奈 国・有形民俗 浜田の泊屋 (昭和 32 年 6 月 3 日指定)、
- ・宿毛市芳奈 県・有形民俗 芳奈の泊屋 (昭和 37 年 1 月 26 日指定)

3. 令和 8 年 3 月 1 日 (日)

- ・高岡郡津野町 県・無形民俗 久保川お伊勢踊り (令和 6 年 3 月 29 日指定)

○史跡等 国県指定 11 件、市町村指定 3 件、その他 7 件 現状調査

1. 令和 7 年 12 月 10 日 (水)

- ・宿毛市押ノ川市山 県・史跡 貞享元年銘法華経塔 (宿毛の経塔)  
(昭和 54 年 4 月 1 日指定)
- ・宿毛市押ノ川市山 市山板碑群 (11 基 県内唯一) 在銘: 長享二年  
(1488) 銘
- ・宿毛市大深浦 国史跡 土佐遍路道観自在寺道 (小深浦～松尾峠) (平成 28 年  
10 月 3 日指定)

2. 令和 7 年 12 月 15 日 (月)

- ・土佐清水市下ノ加江 国史跡 土佐遍路道金剛福寺道「真念庵周辺道」 (令和 6  
年 12 月追加指定)
- ・四万十市不破 国・建造物 不破八幡宮 (昭和 38 年 7 月 1 日指定)  
四国遍路板碑
- ・四万十市丸ノ内 県史跡 一条教房墓 (昭和 28 年 1 月 29 日指定)
- ・四万十市深木 永禄十年 (1567) 銘板碑
- ・黒潮町入野 国・名勝 入野松原 (昭和 3 年 2 月 17 日指定)
- ・黒潮町入野東浜 加茂神社の安政の地震・津波碑 (安政四年 <1857>  
銘)
- ・黒潮町伊田 町史跡 伊田安政津波碑 遍路墓
- ・黒潮町伊田 町史跡 (清岸山東光院) 松山寺跡<sup>しょうざんじ</sup>
- ・黒潮町有井川 県史跡 有井庄司墓 (昭和 28 年 1 月 29 日指定)

3. 令和 7 年 12 月 18 日 (木)

- ・中土佐町大野見四万十民俗館建物と展示資料調査（文化的景観）
- ・日高村産業郷土館の展示資料調査
- 4. 令和7年12月24日（水）
- ・高岡郡佐川町川内が谷大乘院 国重文 木造薬師如来坐像及び両脇侍像（3軀）  
（日光菩薩立像・月光菩薩立像）  
（大正5年8月17日指定）
- ・高岡郡佐川町長竹加茂地区 釈迦堂
- 5. 令和8年1月1日（木）
- ・須崎市中町 国史跡 土佐藩砲台跡（昭和19年11月13日指定）  
（土佐藩砲台跡と富士ヶ浜）
- 6. 令和8年2月6日（金）
- ・須崎市中町 国史跡 土佐藩砲台跡（昭和19年11月13日指定）関連調査  
須崎市大間西町 無量山観音寺石造物群
- 7. 令和8年2月7日（土）
- ・高岡郡越知町柴尾 越知町柴尾の一本杉 碑の基礎調査
- 8. 令和8年2月24日（火）
- ・愛媛県宇和島市津島御内<sup>みうち</sup> 岩陰大師 遍路道関係

○文化的景観等 国選定1件、国指定1件、国登録1件

- 1. 令和8年2月26日（木）
- ・四万十川流域の文化的景観 中流域の農山村と流通・往来（平成23年9月21日追加指定）  
高岡郡四万十町琴平 四万十川財団聞き取り調査  
四万十町大正 国・登録 旧門脇家住宅（平成20年3月7日登録）  
四万十町大正 国・建造物 旧竹内家住宅（昭和47年5月15日指定）

## 調査状況

### ○史跡

- ・県史跡 宿毛市貞享元年(1684)銘法華経塔1基 (3基 宿毛の経塔・五台山の経塔・甲浦の経塔)  
(昭和54年4月1日指定)

所在地：宿毛市押ノ川市山・高知市五台山山麓・安芸郡東洋町東洋町甲浦日蓮宗萬福寺

3基各塔の銘文が異なる部分がある。

宿毛の経塔は、令和6年4月17日の豊後水道地震、最大震度6弱により影響をうけている。一里塚に立地。周辺は宅地化が進んでいる。



宿毛の経塔



笠部欠損・割れ

### 県史跡貞享元年(1684)銘法華経塔周辺石造物の調査

#### 未指定 宿毛市市山 市山板碑群 (11基 県内唯一)

在銘：長享二年(1488)銘 明応二年(1493)銘

宿毛市市山峠の西に位置し、かつては果樹園となっていたが現在は竹藪である。階段が造られており、地域で供養が行われていたようで茶碗が転がっている。

市山東白皇山に「深入禅定 見十方仏」を刻する明応二年銘の板碑がある。



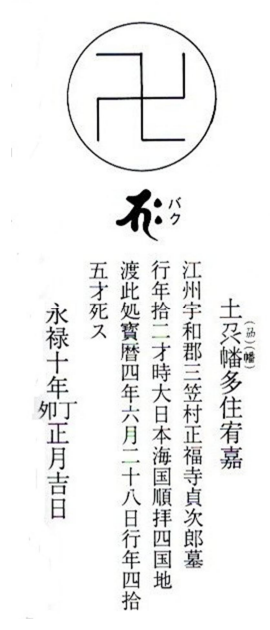
●印 市山板碑群

(右) 地藏板碑(明応二年)



**未指定 四万十市深木の永禄十年（1567）銘板碑**

四万十川堤防上を足摺岬方面に向かう国道 321 号線の実崎（さんざき）集落先の急カーブの分岐を右折、深木川に沿って左折、約 300m先にブロックで組まれた堂があり、この中に建立されている。当初の造立場所は不明。堂は、大きな岩壁のある場所であり、四万十川と深木川が合流する地点にある。褐色の砂岩の自然石、高さ 123 cm、幅 49 cm、厚さ 31 cmを計る。正面に円相に卍、その下に葉研彫りで、種子（バク）を刻し、その下に改刻が、「・・・正福寺貞次郎墓・・・」4行で刻されている。その両側に「土州幡多住宥嘉／永禄十年／丁／卯／正月吉日」とある。改刻された珍しい板碑である。



深木の永禄十年（1567）銘板碑

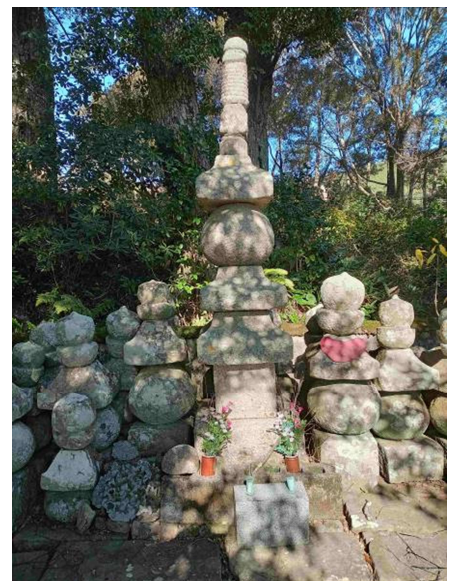
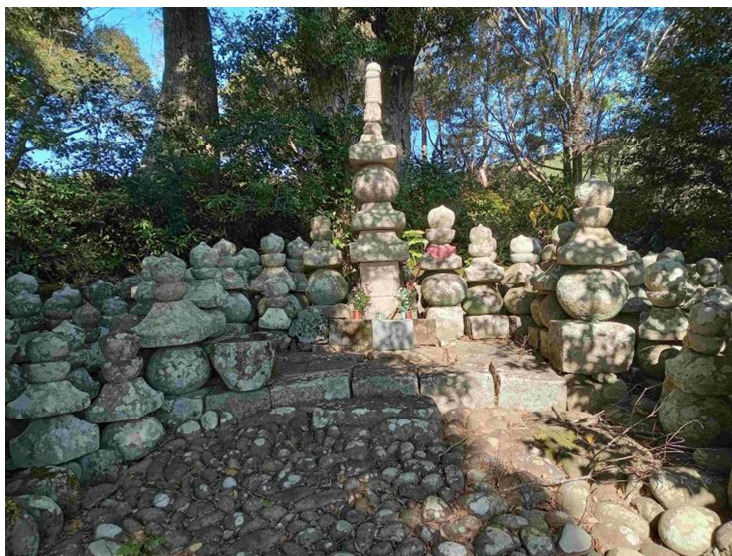
側面

銘文

**・県史跡 高岡郡黒潮町有井庄司墓（昭和 28 年 1 月 29 日指定）**

所在地：黒潮町有井川 14～15 世紀？

土佐湾に注ぐ有井川河口近く左岸にある小さな山丘東端に位置する石塔群。江戸時代の史料に山中にありしもの集めたと記されている。石塔類は調査されていないが、かなりの五輪塔群を主体としている。正面に積み直された層塔がある。基壇、基礎の上の軸部に金剛界四仏が刻されい

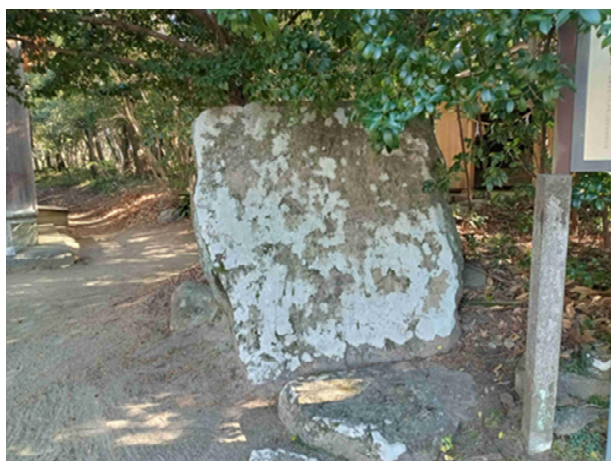


るとされている。3基の笠部を配置しているが、五輪塔の水輪が混ざっている。さらに相輪が置かれている。これが有井庄司墓とされている。何度か災害により倒壊していると考えられる。

### 黒潮町・県史跡有井庄司墓に係る周辺の寺跡と石造物調査

#### 黒潮町入野東浜 加茂神社の安政の地震・津波碑

入野の東浜にある入野郷の総鎮守とされる神社である。境内に安政地震の事を刻した碑がある。大きさは、縦1.9m、横1.8m、厚さ60cmの大石がある。これに地震に関する事が記述されている。造立は安政四年（1857）6月である。灰色の砂岩。



加茂神社の地震津波碑



倒壊した鳥居

#### 黒潮町伊田の安政津波碑 町の指定

金比羅神社入口に造立された安政津波碑で、コンクリートの台石に据えられている。高さ1.18m、幅1.08m、厚さ60cmで、花崗岩とされる。津波で浦が一同流出したことや大地震にこれより先140年、150年先まで用心すること等を記している。南海トラフが100年から150年ごとに繰り返されていたことを当時の人たちは知っていたと考えられる。碑文を書いたのは、松山寺住職文瑞である。石碑裏に遍路墓がある。



伊田の安政津波碑



遍路墓

### 清岸山東光院松山寺跡

黒潮町伊田の山中に松山寺跡がある。『入野七郷内地検帳』の「井田村」に寺名がみえており、海岸部に位置する中世寺院跡と考えられる。現地には、近世の墓標などがみられる。登り口には五輪塔の部材や宝篋印塔の笠部、石仏等がある。



松山寺跡 登り口近くの石塔部品

山中の松山寺跡

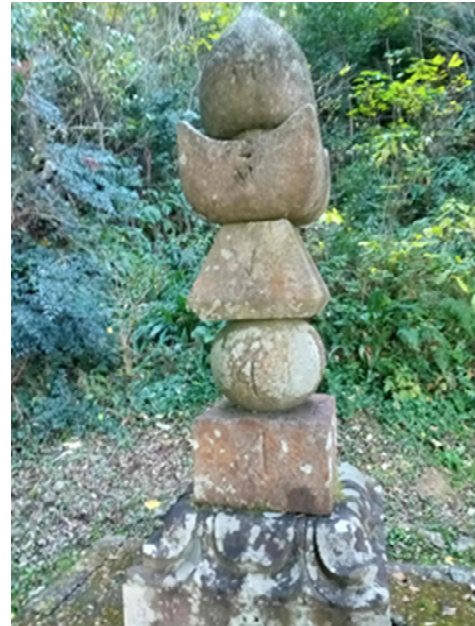
### ・四万十市丸の内 県史跡 一条教房墓（昭和 28 年 1 月 29 日指定）の基礎調査

所在地：四万十市丸の内 1639 の 1

一条教房は、応永 30 年(1423)京都で生まれた。後に中村に館をかまえた。文明 12 年(1480)58 才で逝去とされる。

妙華寺谷にあった菩提寺に葬られたと言われている。寺は、江戸時代に退転。

この五輪塔は、後年教房の遺徳を慕う人々によりここに再建されたものである。残存していた五輪塔部材 2 基をもとに補足し再興したものであろう。



一条教房墓 五輪塔（追補）

○国史跡 遍路道

- ・宿毛市小深浦 国史跡 土佐遍路道観自在寺道（小深浦～松尾峠） 平成 28 年 10 月 3 日指定  
四国霊場第 39 番札所延光寺（宿毛市平田町）から伊予の第 40 番札所観自在寺（愛媛県南宇和郡  
愛南町）へ向かう松尾峠越えのルートのうち、宿毛市小深浦から県境の松尾峠までの遍路道。遍  
路道周辺には、中世の六十六部廻国供養塔が造立されている。



急峻な遍路道

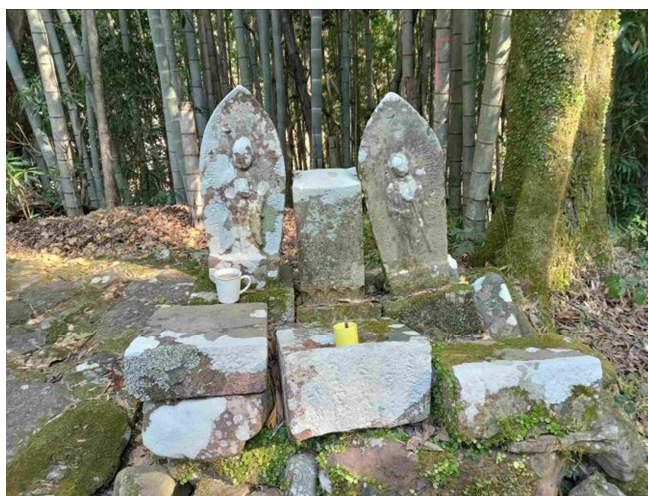


県境の松尾峠

- ・土佐清水市下ノ加江 国史跡 土佐遍路道金剛福寺道「真念庵周辺道」 令和 6 年 12 月指定  
四国霊場第 37 番札所岩本寺（高岡郡四万十町）から第 38 番金剛福寺（土佐清水市足摺岬）まで  
の遍路道のうち、土佐清水市の市野瀬集落の丘陵上にある真念庵へ続く石段から国道 321 号と県  
道 346 号の分岐付近下り口までが指定範囲。市所有道の約 0.6 km。境内には寄進手水鉢、丁石、  
道標、遍路墓などの石造物や、真念庵には弘法大師坐像や仏具などが残る。



遍路道



境内周辺の供養石仏等

## 高知県史編さん自然部会について

## (1) 自然編（本編）のコンセプト

1. 高知の自然環境と多様な生物の特徴と特質について、これまでの自然史科学の成果をふまえて叙述する。
2. 高知の自然災害について、通史的に叙述するとともに、自然災害と関連する都市計画や開発、災害復旧・復興の歴史を取り上げる。
3. 高知の自然について県民の理解と愛着を深めるため、写真や図表を多く盛り込み、ビジュアルを重視した紙面構成とする。記述に関連したトピックをコラム記事で取り上げる。

## (2) 構成と記載内容の骨子(案)

第 1 編 高知の自然と人 (仮)

## ◎総論

- ・高知の自然環境の概要と特徴

## ◎第 1 章 高知の地質・地形と気候

- ・地質 地層・地質から見た高知の歴史
- ・化石 化石から見た高知の歴史（分類別 or 地域別で叙述）
- ・地形 高知の地形の成り立ち（山地、丘陵・台地、低地等）と特徴
- ・気候 高知の気候と気象の特徴、大きな被害をもたらした台風や豪雨について、気象メカニズムを概説
- ・天文 高知の天文学史など

## ◎第 2 章 高知の植物

- ・総論 高知の植物相、植生群落、地質と植物など
- ・各節 ①高知の植物相（種子、シダ、コケ、藻類、地衣類、菌類）  
②高知の植生と植物生態（海岸、湖沼、低地、平地、山地など）

## ◎第 3 章 高知の動物

- ・総論 高知の動物相、絶滅種と絶滅危惧種など
- ・各節 ①高知の動物相（昆虫、昆虫以外の無脊椎動物、魚類、両生類・爬虫類、鳥類、哺乳類）  
②環境と動物生態（河川、平野、丘陵地、山地、半島、海など）

⇒第 2 章植物と第 3 章動物の各節は、①か②のいずれかで叙述

第 2 編 高知の自然災害とまちの変遷 (仮)

## ◎総論

- ・イントロダクション（第 1 章と第 2 章の内容説明）

## ◎第 1 章 高知の自然災害史

- ・古代～近代（昭和南海地震）まで 自然災害の概要と被害状況を叙述
- ・白鳳地震や慶長地震など、特徴的な災害を取り上げる

## ◎第 2 章 災害からの復旧・復興

- ・災害の概要と被害状況、当時の対応、体験談、復旧事業とまちの変遷
- ・繁藤災害、昭和 50 年台風、物部村の大火、98 豪雨、高知西南豪雨のほか、高知県に特徴的な災害を取り上げる

### (3) 準備、検討の状況

#### 1. 準備会の実施

- 第1回(R7. 4. 10) 本編の構成・内容、編さん体制の検討
- 第2回(R7. 7. 8) 自然部会の方針、編・章構成の検討
- 第3回(R7. 9. 26) 部会の体制、構成・版面の検討、令和8年度予算要望
- 第4回(R8. 1. 19) 編・章・節の骨子の検討、調査体制等の協議

#### 2. 刊行スケジュール(予定)

- R 8～13年(6年) 各論の調査・執筆
- R 14～15年(2年) 総論の執筆、全体調整、編集(校正)、刊行

#### 3. 版面、ページ配分(案)

- A 4判 500 ページ 1 Pあたり 25 字×40 行×2 段=2,000 字
- 各編 218 ページ 1 節(各論)あたり 6～8 ページ

#### 4. 調査協力員等の依頼状況

##### ◎第1編 高知の自然と人(仮)

- ・第1章地質・地形と気候、第2章植物、第3章動物の各論について、専門家(大学教員、博物館学芸員等)に依頼。

##### ◎第2編 高知の自然災害とまちの変遷(仮)

- ・第1章自然災害史について、災害史が専門の学芸員への協力を依頼。
- ・第2章災害からの復旧・復興について、被災時に県職員であった県土木部や危機管理部のOBに執筆を依頼。取り上げる災害に関して被害が大きかった地域(香美市や大月町など)との共同調査も検討。

## 令和8年度当初予算案の概要について

### 1 編さん体制の構築

- ・編さん委員会を1回、編集委員会を3回開催
- ・既存の7部会（近世・近代・民俗・古代中世・現代・考古・文化財）に加え、来年度から自然部会を立ち上げ、合計8部会の設置完了。

### 2 令和8年度高知県史編さん事業の全体予算（案）

- ・140,191千円（令和7年度当初：111,767千円）
  - 内訳（1）編さん体制の構築・運営 41,049千円（令和7年度：36,330千円）  
（編さん委員会・編集委員会委員謝金・旅費、事務局運営費）
  - （2）調査・編集活動経費 96,262千円（令和7年度：72,589千円）  
（委員月額謝金、各専門部会活動費、事務局活動費、クラウドサービス維持費）
  - （3）広報啓発・人材育成 2,880千円（令和7年度：2,848千円）  
（広報誌作成等広報活動、養成講座・講演会等開催経費）

### 3 専門部会における調査・編集活動予算（案）

資料4別紙のとおり

### 4 人材育成・広報啓発

- ・郷土の歴史及び県史への関心を高めるための講演会を開催
- ・学校や団体等の要請に応じて、歴史に関する出前講座を実施
- ・県内の歴史系文化施設と連携し、資料調査隊の養成講座を実施
- ・県の文化広報誌「とさぶし」や県の広報媒体を活用した、編さん状況や本県の歴史の魅力を発信
- ・調査成果物報告ニュースレター「ときのあかし」の制作

各専門部会における調査・編集活動予算一覧表

資料4別紙

	旅費		資料調査			編集活動	金額(単位:千円)	
	県内 (合同調査、個別調査)	県外 (所蔵資料調査)	報酬<日々雇用職員>	報償費<調査協力員等>	調査委託		合計	対前年度比
古代・中世部会	計2回(2泊3日及び1泊2日)	年1回	・長宗我部史料抽出作業(528時間) 計528時間	・史料テキストの校正作業 ・調査協力員による調査等補助	・高知県関連の古代・中世史料の収集・整理・分析 (東京大学史料編纂所)		2,764	△ 869
近世部会	計3回(3泊4日) その他個別調査等	年1回	・資料撮影、翻刻、データ入力等(5,181時間) ・合同調査時の調査補助(630時間) 計5,811時間	・R8刊行予定の資料編に向けた原稿料(原稿用紙500枚分) ・資料編2以降に向けた翻刻作業【県内外の専門的知識を有する院生等に依頼】(原稿用紙6,000枚分) ・調査協力員等による調査等補助		・R8刊行予定の資料編に向けた校正作業	19,259	+ 922
近代部会	計3回(3泊4日)	年1回	・資料撮影、翻刻、データ入力等(1,822時間) ・合同調査時の調査補助(128時間) 計1,950時間	・R9刊行予定の史料編に向けた翻刻作業 ・原稿執筆料(原稿用紙2,000枚) ・県内外の専門的知識を有する院生等に依頼(原稿用紙4,000枚分) ・調査協力員による調査等補助	・兵事資料撮影のための資料解体・複製本 (民間事業者)	・R9刊行予定の史料編に向けた執筆作業(原稿用紙2,000枚分)	14,860	+ 6,891
現代部会	計3回(3泊4日)	年3回	・資料撮影、翻刻、データ入力等(3,360時間) ・合同調査時の調査補助(112時間) 計1,456時間	・R10刊行予定の資料編に向けた翻刻作業(原稿用紙1,200枚分)			7,310	+ 3,545
考古部会	計4回(3泊4日) その他、中世城郭調査や古墳調査等			・調査協力員による調査等補助 ・調査カード作成(72枚)			2,747	△ 1,948
民俗部会	計7回(2泊3日及び4泊5日)	年1回	・データ入力等(2,016時間) ・合同調査時の調査補助(112時間) 計2,128時間	・R9刊行予定の史料編に向けた原稿料(原稿用紙2,526枚) ・地名調査等への調査協力員による調査補助 ・アンケート協力謝礼		・R9刊行予定の史料編に向けた執筆作業(原稿用紙2,526枚分)	11,975	+ 4,803
文化財部会	計12回(2泊3日) その他、個別調査等		・資料のPDF化作業(約768時間) ・PDF資料のOCR及び校正作業(約192時間) 計960時間	・調査協力員による調査等補助			2,956	△ 153
自然部会	計22回(1泊2日)		・資料撮影等(320時間) 計320時間	・調査協力員による調査等補助			1,563	+ 1,563

## 広報啓発・人材育成の実施状況について

### 1. 広報啓発

#### (1) 文化広報誌「とさぶし」の刊行

- ・文化広報誌「とさぶし」を活用した広報の展開（「つないでつむいで 県史編さん室」）。
- ・令和7年度も6月、9月、12月、3月の計4巻発刊予定。  
6月… 道の駅で出会う地域のたからもの（文化財部会の設置・調査開始について）  
9月… 高知の喫茶は、自由だ！アサヒルバン喫茶  
(オーテピア高知図書館 レファレンスサービス)  
12月… 高知発、世界行き！～海を渡る「ワザ」と「モノ」～（民俗調査 伝説「秤屋の娘」）  
3月… 暮らすように泊まる～宿を拠点に過ごす、高知らしい時間～（予定）  
(現代部会 室戸市漁業調査の紹介)

#### (2) 事業報告書「ときのあかし」

- ・報告書の主な仕様  
規 格 : A4・16 ページ(各部会 2 ページ+事務局 表裏ページ)・フルカラー  
部 数 : 3,000 部  
発刊時期: 令和8年2月27日(金)
- ・随時、県内文化施設等へ配付

#### (3) 成果報告会の開催

下記のとおり四万十市にて実施。33名が参加。

令和7年度 高知県史編さん事業／タキモト城跡調査 成果報告会

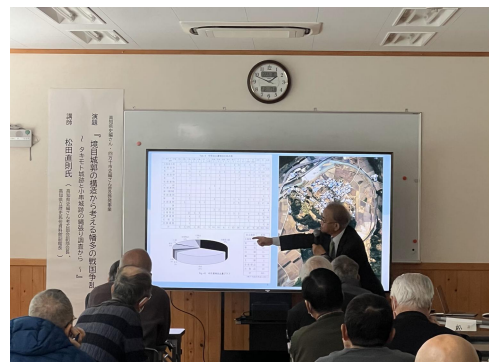
題 目 : 境目城郭の構造から考える幡多の戦国争乱  
～タキモト城跡と小串城跡の縄張り調査から～

講 師 : 松田 直則 氏

(高知県史編さん考古部会副部会長・高知県立歴史民俗資料館副館長)

日 時 : 令和7年12月7日(日) 13時30分から15時30分

会 場 : 四万十市立武道館会議室(〒787-0008 高知県四万十市安並 4231)



## 2. 人材育成

### (1) 「歴史資料調査隊」養成講座の開催

- ・令和7年度は下記のとおり計3回実施。

#### 第8回養成講座「資料撮影編」

(実施日：令和8年6月21日～22日)

講師：高知県立高知城歴史博物館  
総務企画課地域企画室

内容：歴史資料の取扱い方、写真撮影方法

修了者数：12名



#### 第9回養成講座「史料解読編」

(実施日：令和7年11月30日、12月7日、同月13日、同14日)

講師：高知県立高知城歴史博物館 館長 渡部 淳

内容：古文書解読の基礎講座、調査カード採録など

修了者数：9名



#### 第10回養成講座「資料撮影編」

(実施日：令和8年1月24日～25日)

講師：高知県立高知城歴史博物館  
総務企画課地域企画室

内容：歴史資料の取扱い方、写真撮影方法

修了者数：5名

- ・修了者の内、第8回に参加した9名は令和7年度会計年度任用職員（日々雇用）として採用。第9回以降の修了者については、令和8年度会計年度任用職員（日々雇用）募集の対象とし、県史編さん室での資料撮影、翻刻作業、データ整理業務等に携わっていただく。
- ・来年度県史の刊行が開始となるが、調査も並行して行われるため、調査補助の人材を継続して確保するため、引き続き、養成講座を実施する形で検討。



### (2) 地元高校生による資料調査見学の開催

- ・令和7年度は下記のとおり実施。

実施日：令和7年7月23日～25日、12月23日、12月25日

内容：古文書の取扱い体験、資料撮影体験

参加者数：計13名

- ・県史編さん業務について簡単に説明した後、実際に古文書に触ってもらい、撮影する作業を体験。その他、くずし字辞典に触れたり、民俗分野のデータ整理などの様子を見学してもらった。
- ・参加者の学生からは「今まで触れたことのないものに触れられた」「地元を知る方法を発見できた」などの感想をいただいております、とても好評で、興味を持っていただくよい機会となった。
- ・今年度は、春休み期間にも見学の受け入れを実施予定（高知追手前高校、高知学芸高校）。